

愛知の人口動向

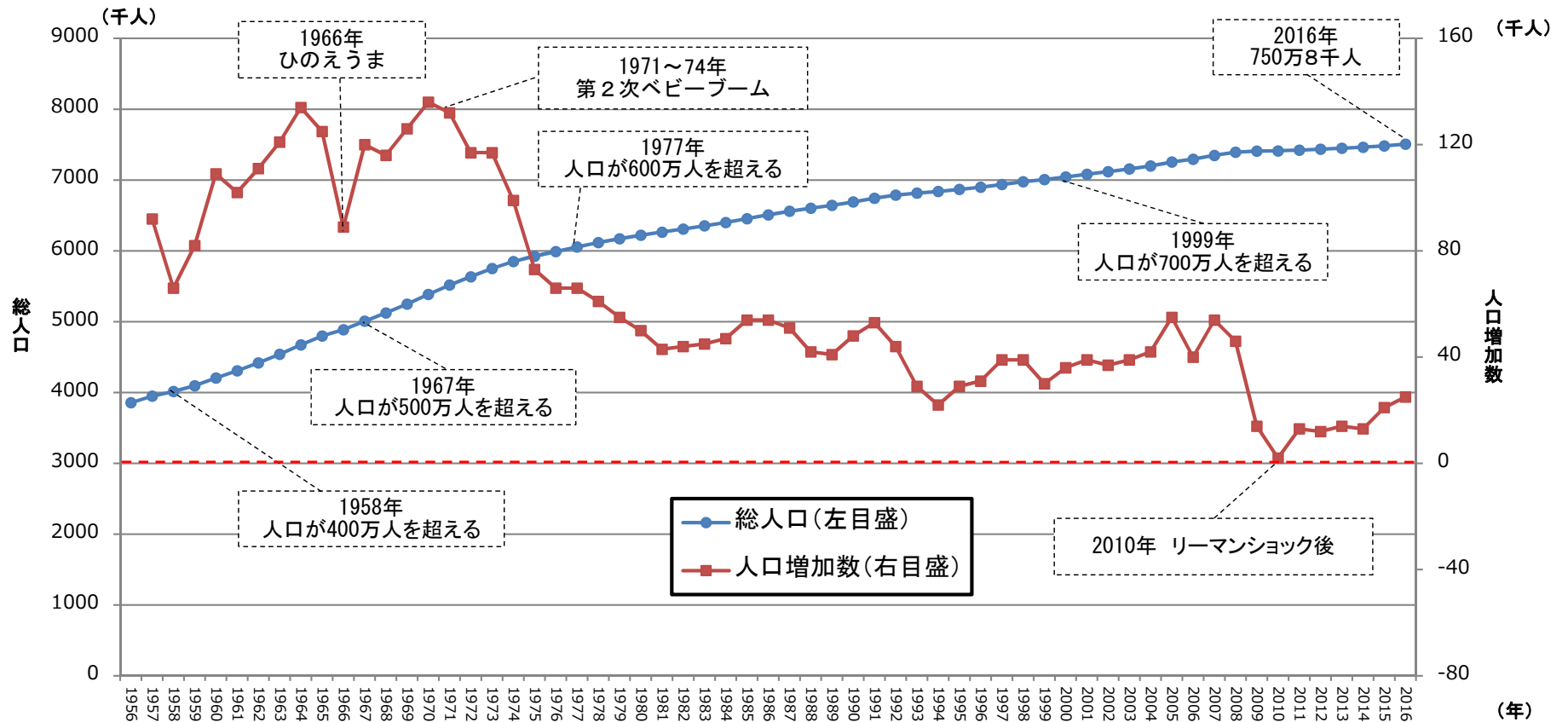
愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略検証会議資料

平成29年7月24日

総人口の推移

○ わが国が、2008年をピークに人口減少社会に移行する中で、本県の総人口は、増加を続けており、2016年6月には750万人を突破。

愛知県の総人口の推移



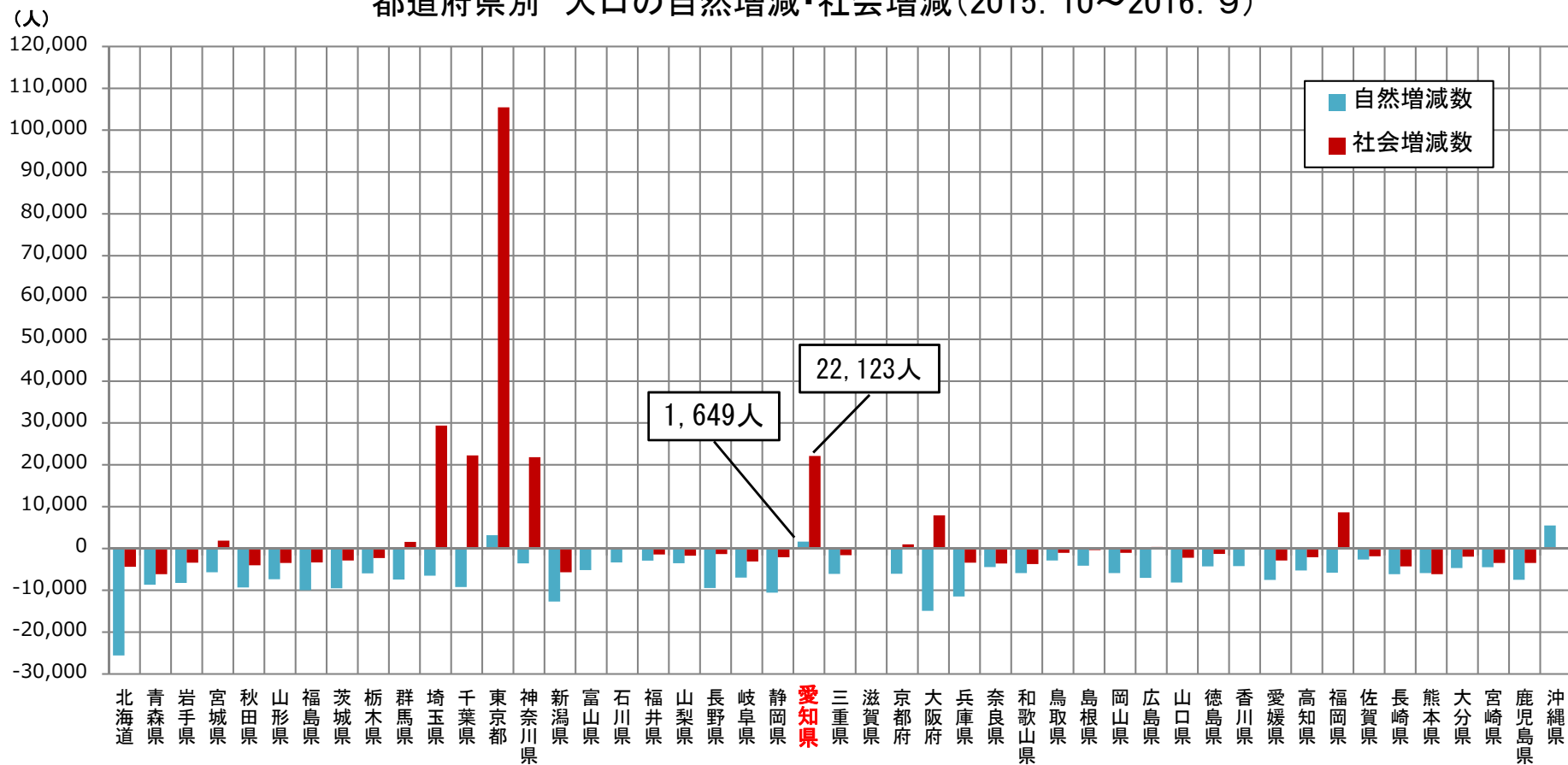
出典: 愛知県県民生活部統計課「あいちの人口」

※総人口は各年10月1日現在、人口増加数は前年10月～当年9月、外国人を含む。

都道府県別人口の増減(自然増減・社会増減)

○ 自然増と社会増の両方を維持しているのは愛知県、東京都、沖縄県の3都県のみ。

都道府県別 人口の自然増減・社会増減(2015. 10～2016. 9)

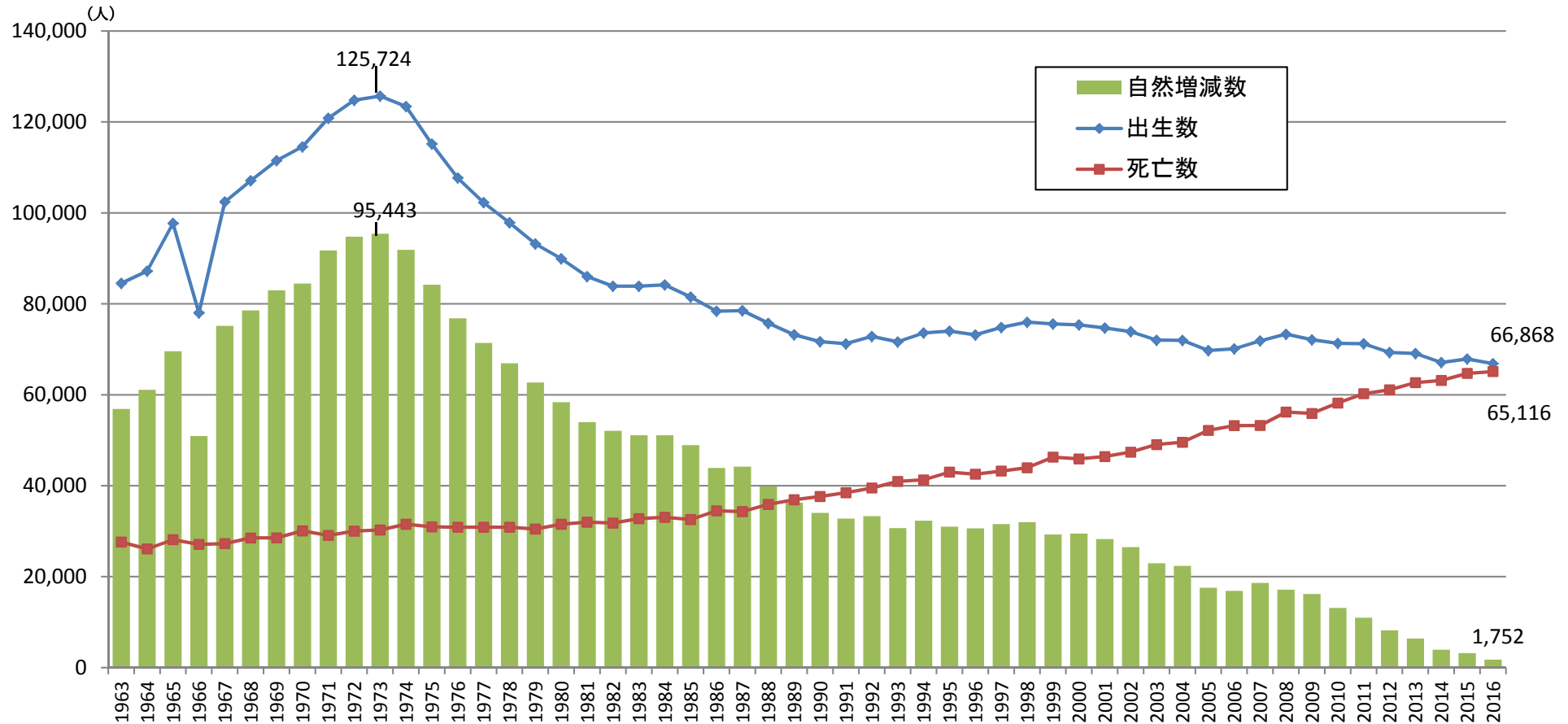


出典:総務省「人口推計」※外国人を含む。

自然増減数の推移

- 出生数は1973年をピークに減少傾向にある一方、死亡数は増加傾向が続いている。
 - 出生数から死亡数を差し引いた自然増減数については、かつて自然増を維持しているものの、減少が続いている。
- ※日本人のみを対象とした「人口動態統計(厚生労働省)」では、2016年に自然減に転じた。

愛知県における自然増減数の推移

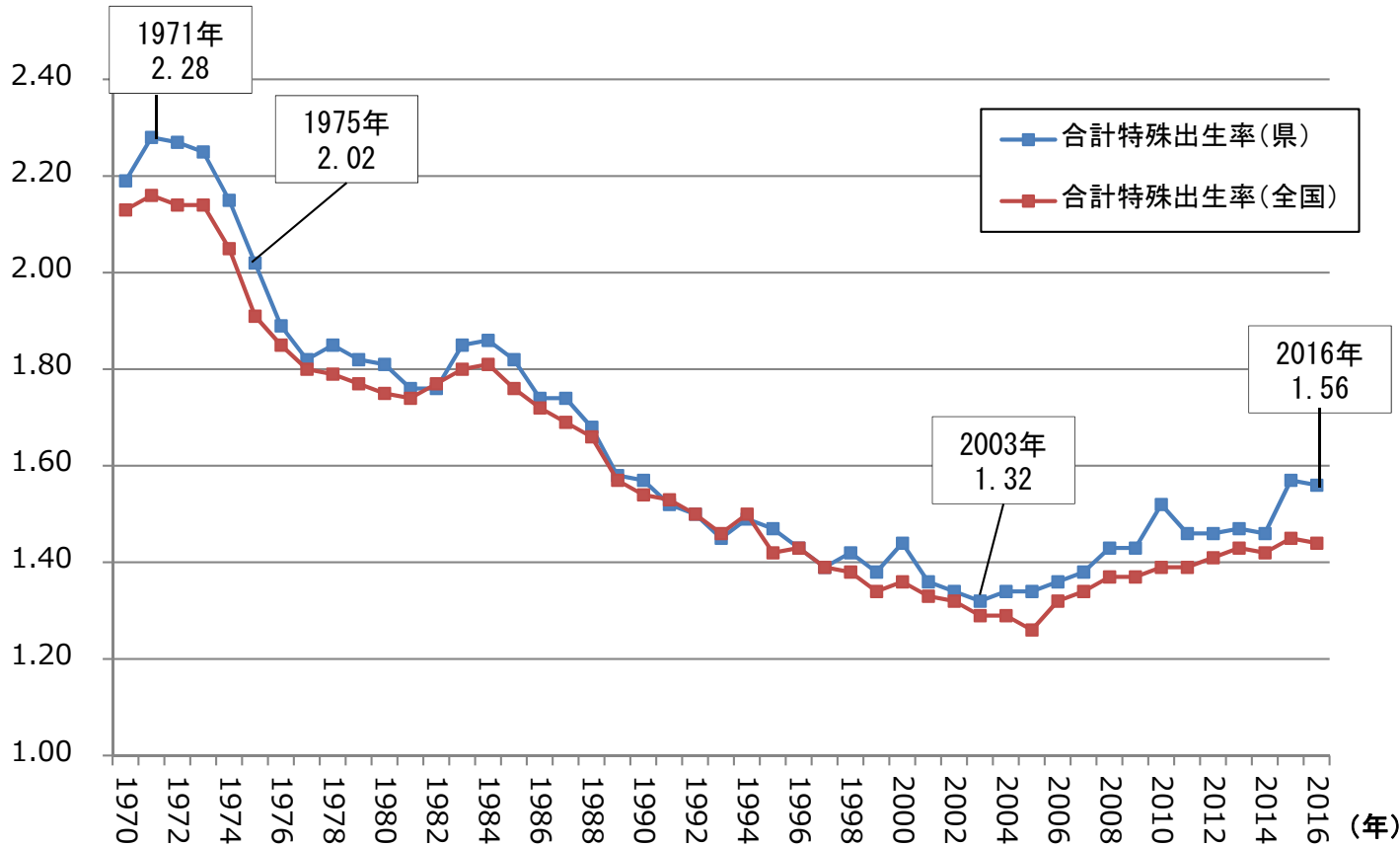


出典: 愛知県県民生活部統計課「あいちの人口」 ※前年10月～当年9月、外国人を含む

合計特殊出生率の推移

- 合計特殊出生率は、1974年まで人口置換水準(2.07)を上回っていたが、低下が続き、2003年には1.32となった。その後は緩やかな上昇傾向にあり、2016年の合計特殊出生率は、1.56となっている。
- 大都市圏の出生率が低い水準にある中で、全国平均(1.44)を上回り、全国16位となっている。

愛知県の合計特殊出生率の推移



出典:厚生労働省「人口動態統計」

都道府県別合計特殊出生率 (2016年)

順位	都道府県	合計特殊出生率
1	沖 縄	1.95
2	島 根	1.75
3	長 崎	1.71
3	宮 崎	1.71
5	鹿 児 島	1.68
6	熊 本	1.66
7	大 分	1.65
7	福 井	1.65
9	香 川	1.64
10	佐 賀	1.63

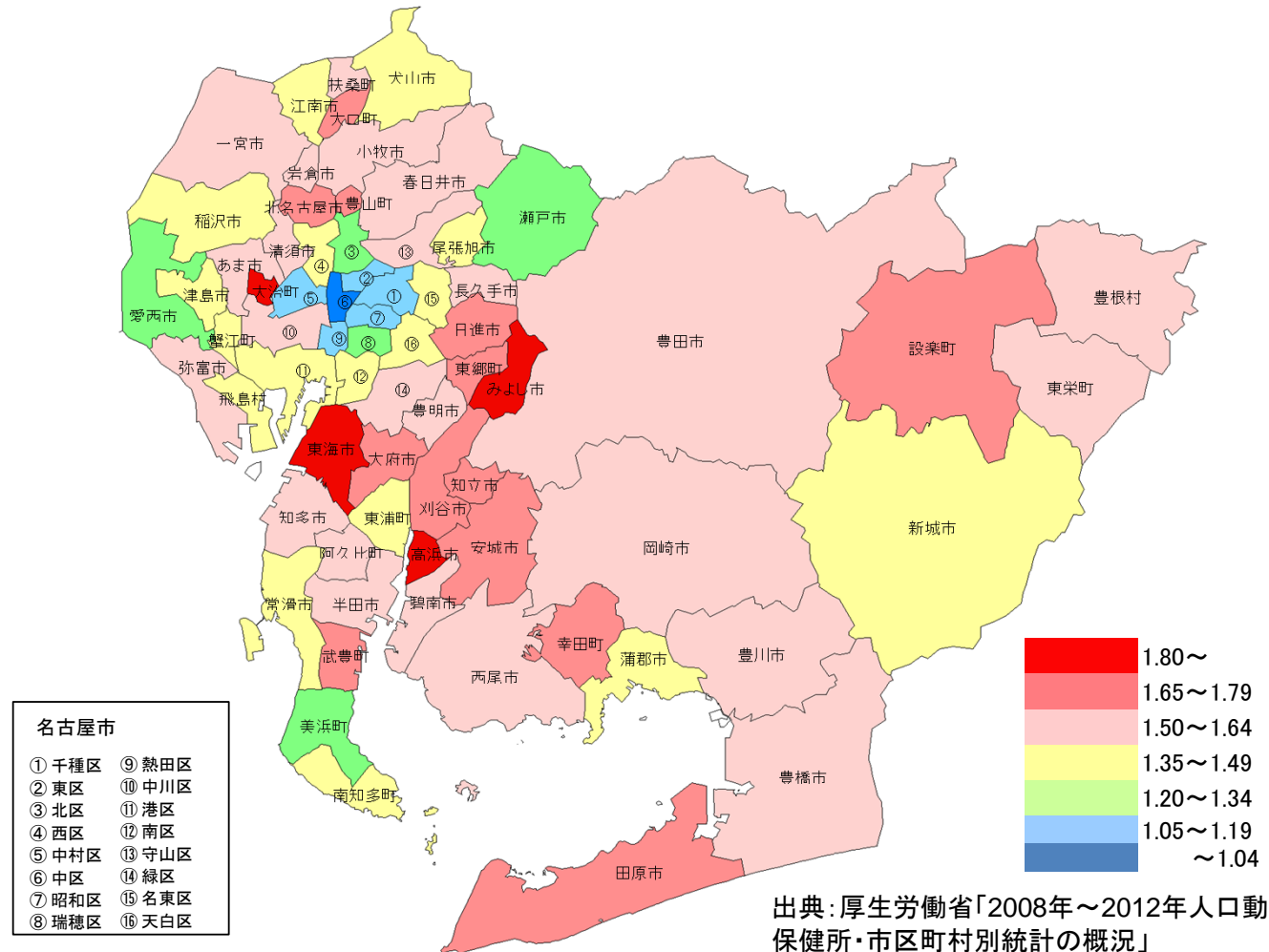
16	愛 知	1.56
----	-----	------

39	大 阪	1.37
40	埼 玉	1.37
41	神 奈 川	1.36
42	奈 良	1.36
43	千 葉	1.35
44	京 都	1.34
45	宮 城	1.34
46	北 海 道	1.29
47	東 京	1.24
	全 国	1.44

市町村別合計特殊出生率

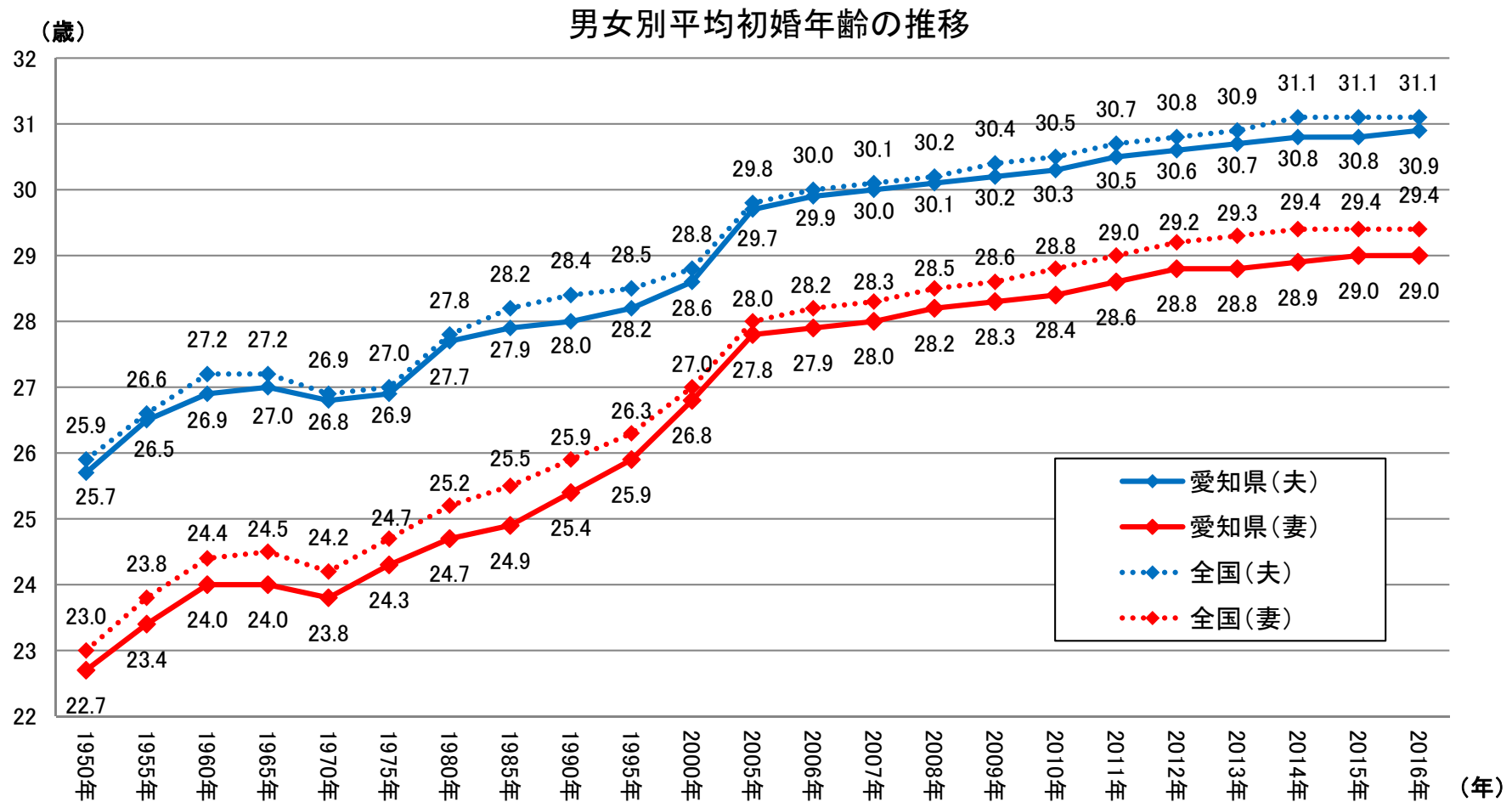
- 2008～2012年の市町村別合計特殊出生率を見ると、上位5市町村は、大治町(1.84)、東海市(1.82)、みよし市(1.81)、高浜市(1.8)、知立市(1.79)。
- 下位5市町村は、美浜町(1.22)、愛西市(1.25)、瀬戸市(1.30)、名古屋市(1.35)、津島市(1.38)。
- 製造業を中心に産業が集積している西三河地域、知多北部地域が比較的高く、名古屋市中心部で低い傾向がみられる。

	合計特殊出生率		合計特殊出生率
名古屋市	1.35	稲沢市	1.40
千種区	1.17	新城市	1.41
東区	1.14	東海市	1.82
北区	1.34	大府市	1.73
西区	1.37	知多市	1.52
中村区	1.13	知立市	1.79
中区	0.97	尾張旭市	1.41
昭和区	1.12	高浜市	1.80
瑞穂区	1.26	岩倉市	1.59
熱田区	1.18	豊明市	1.42
中川区	1.53	日進市	1.69
港区	1.48	田原市	1.66
南区	1.38	愛西市	1.25
守山区	1.65	清須市	1.63
緑区	1.60	北名古屋市	1.65
名東区	1.35	弥富市	1.56
天白区	1.40	みよし市	1.81
豊橋市	1.59	あま市	1.55
岡崎市	1.63	長久手市	1.55
一宮市	1.52	愛知郡 東郷町	1.67
瀬戸市	1.30	西春日井郡 豊山町	1.74
半田市	1.54	丹羽郡 大口町	1.72
春日井市	1.59	丹羽郡 扶桑町	1.62
豊川市	1.62	海部郡 大治町	1.84
津島市	1.38	海部郡 蟹江町	1.45
碧南市	1.63	海部郡 飛島村	1.48
刈谷市	1.77	知多郡 阿久比町	1.62
豊田市	1.62	知多郡 東浦町	1.45
安城市	1.75	知多郡 南知多町	1.42
西尾市	1.58	知多郡 美浜町	1.22
蒲郡市	1.43	知多郡 武豊町	1.65
犬山市	1.41	額田郡 幸田町	1.77
常滑市	1.39	北設楽郡 設楽町	1.76
江南市	1.42	北設楽郡 東栄町	1.54
小牧市	1.55	北設楽郡 豊根村	1.51



初婚年齢の推移

- 平均初婚年齢は、全国と同様、長期的な上昇傾向にあり、晩婚化が進行している。2016年で、夫30.9歳、妻29.0歳となっており、1970年と比較すると、夫は4.1歳、妻は5.2歳高い。
- 全国に比べると、男女ともに平均初婚年齢が低い傾向が続いている。

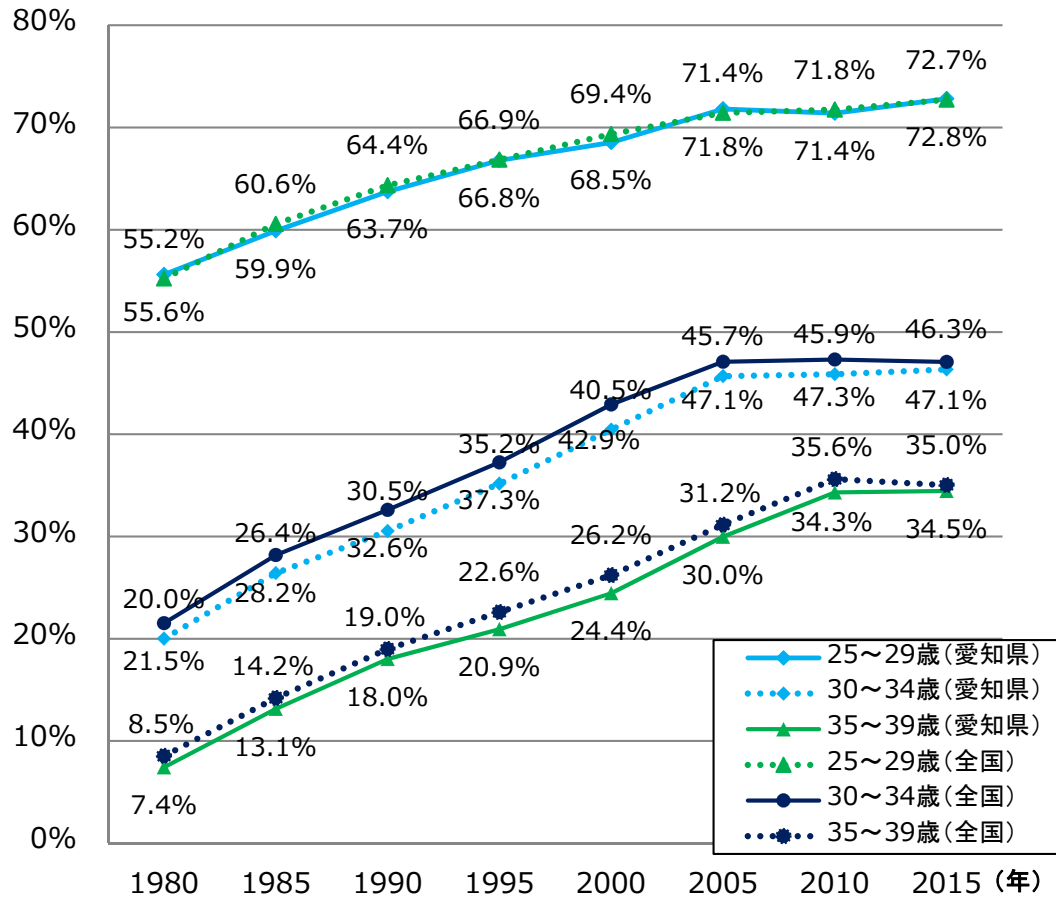


出典：厚生労働省「人口動態統計」

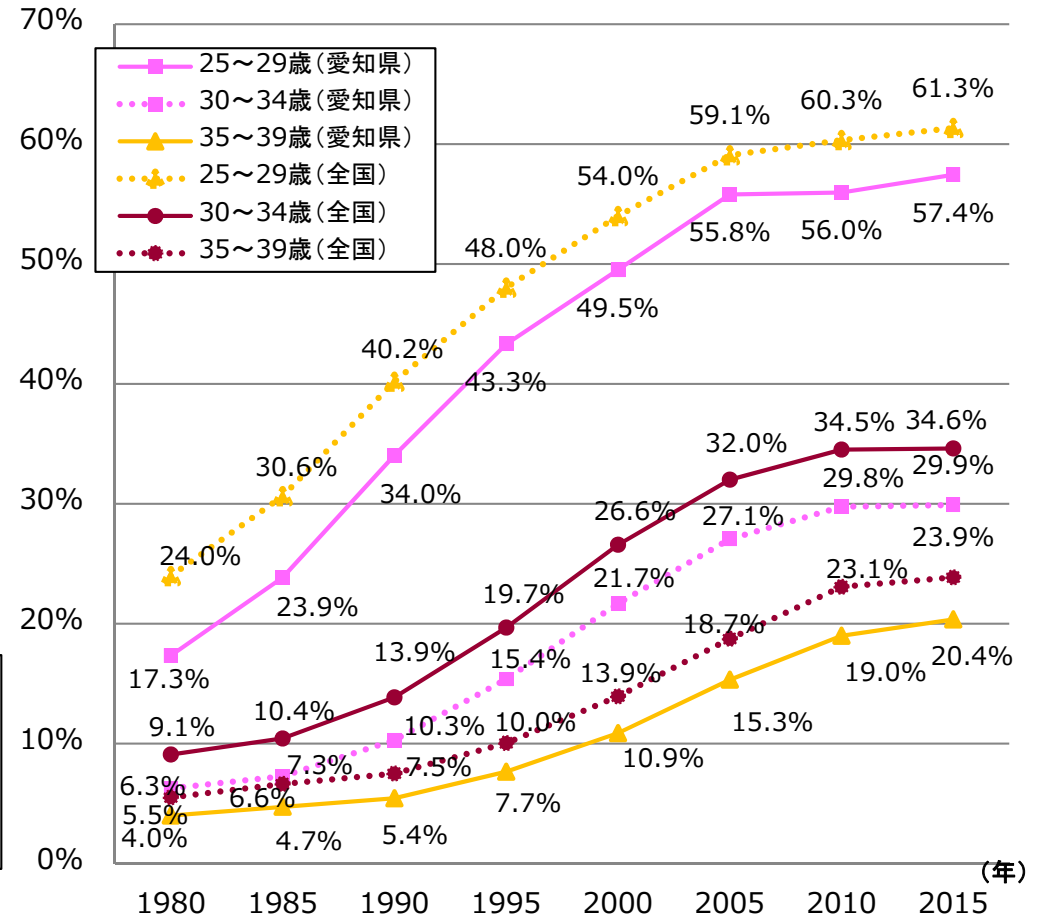
未婚率の推移

- 男女・各年齢階級(25～29歳、30～34歳、35～39歳)において、未婚率は上昇傾向であり、2010年には、30歳代前半では、男性の約2人に1人、女性の約3人に1人、30歳代後半では、男性の約3人に1人、女性の約5人に1人が独身。
- 2015年の本県の未婚率は、男女・各年齢階級とも全国より低くなっている。

男性の未婚率



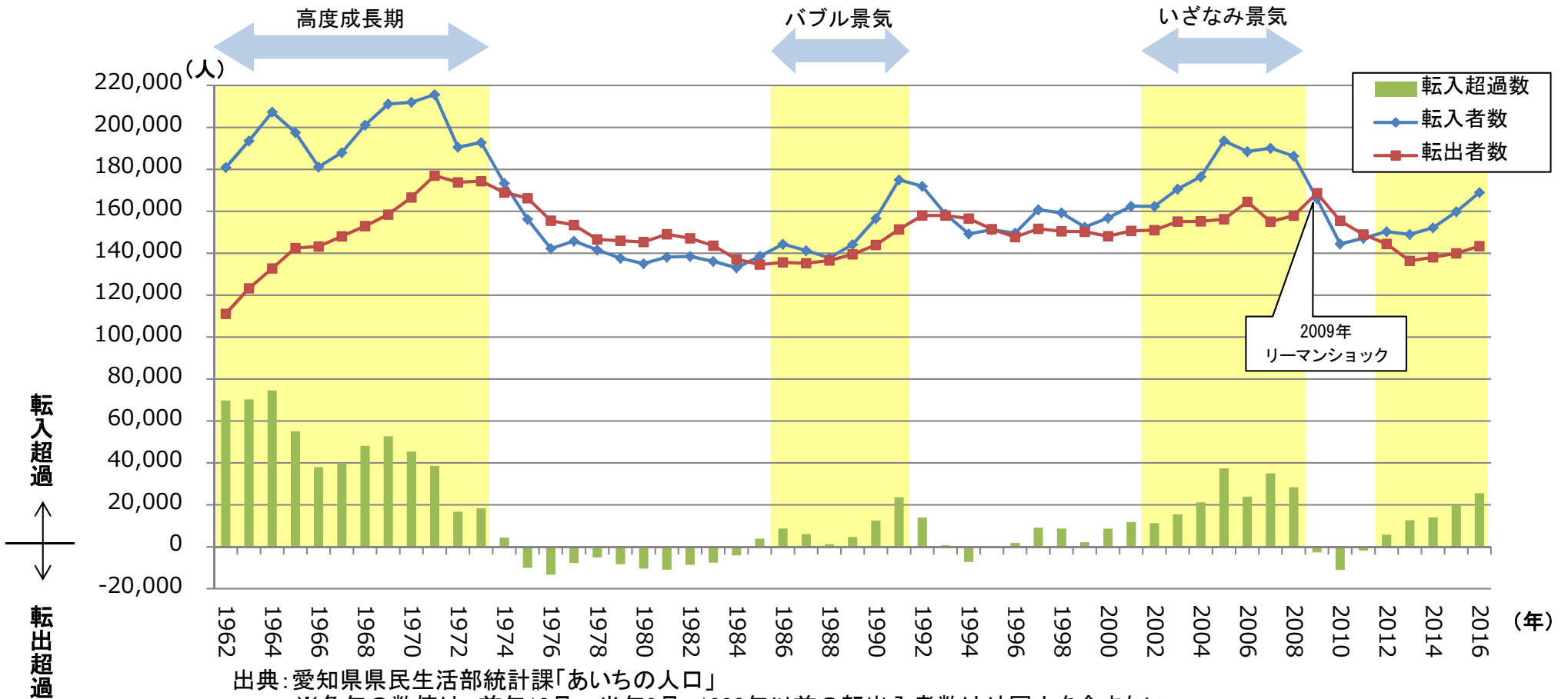
女性の未婚率



転出入者数の推移

- 本県の転出入者数は、景気動向の影響を受けて増減が起こりやすく、高度成長期(1955～1973年頃)やバブル景気(1986年～1991年頃)、いざなぎ景気(2002～2008年頃)の時期には転入超過となった。
- 一方、景気後退期には転出超過となることが多く、近年では、リーマンショック(2009年)により、2009年～2011年に転出超過となった。2012年以降は、再び転入超過に転じている。

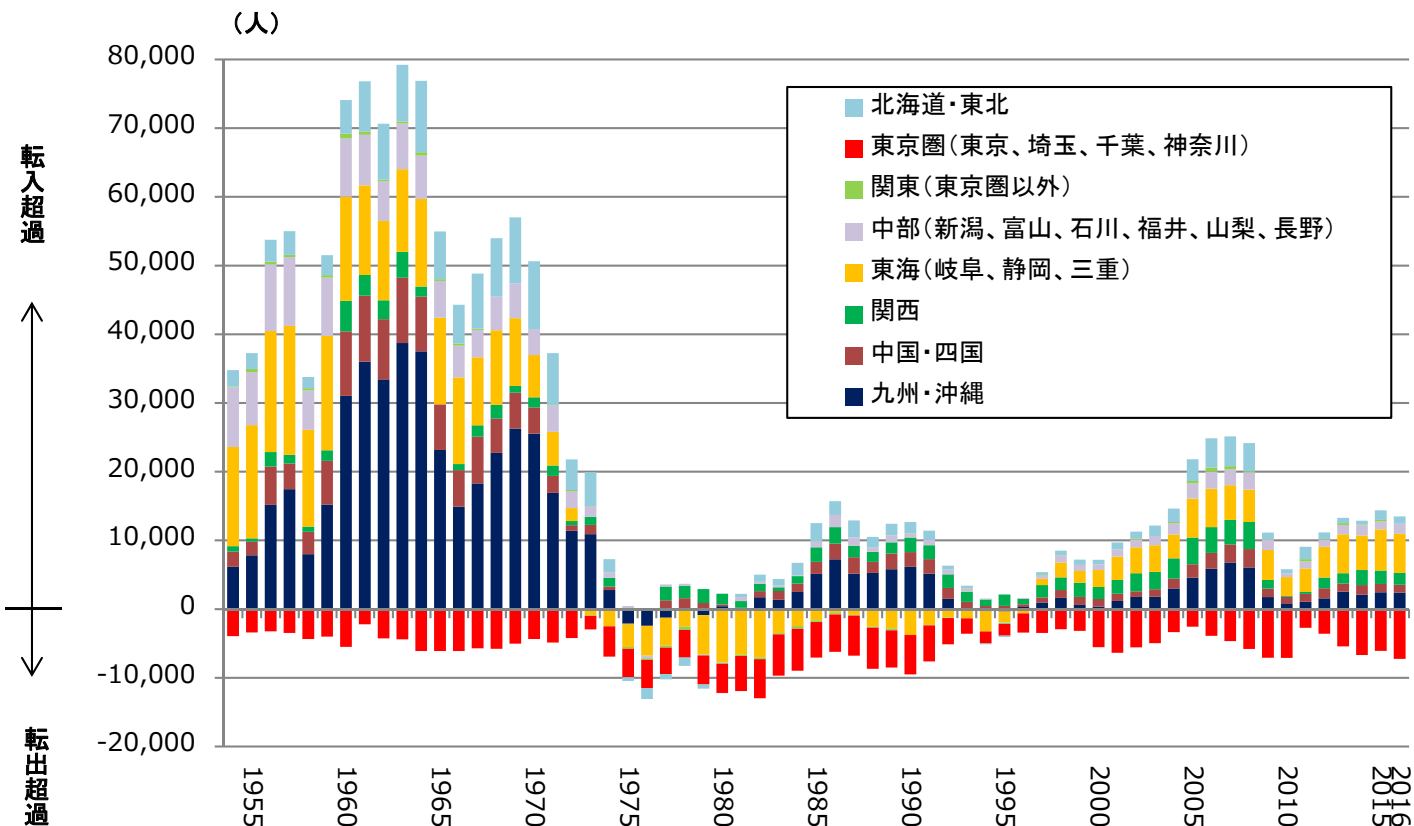
愛知県の転出入者数の推移



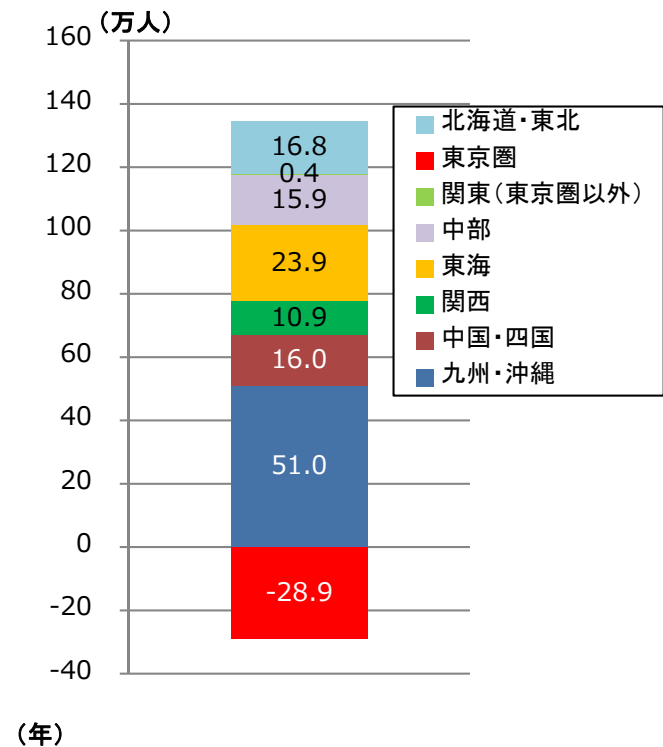
地域ブロック別の人口移動の推移

- 地域ブロック別の人口移動の状況を見ると、東京圏(東京・埼玉・千葉・神奈川)に対しては転出超過、それ以外の地域に対しては、転入超過の状況が続いている。
- 1970年代から90年代はじめ頃にかけては、東海地域(岐阜・静岡・三重)に対しても転出超過であったが、その後は、転入超過となっている。

愛知県の転出入者数の推移(全国地域ブロック別)



転入超過数累計(1954～2016年)



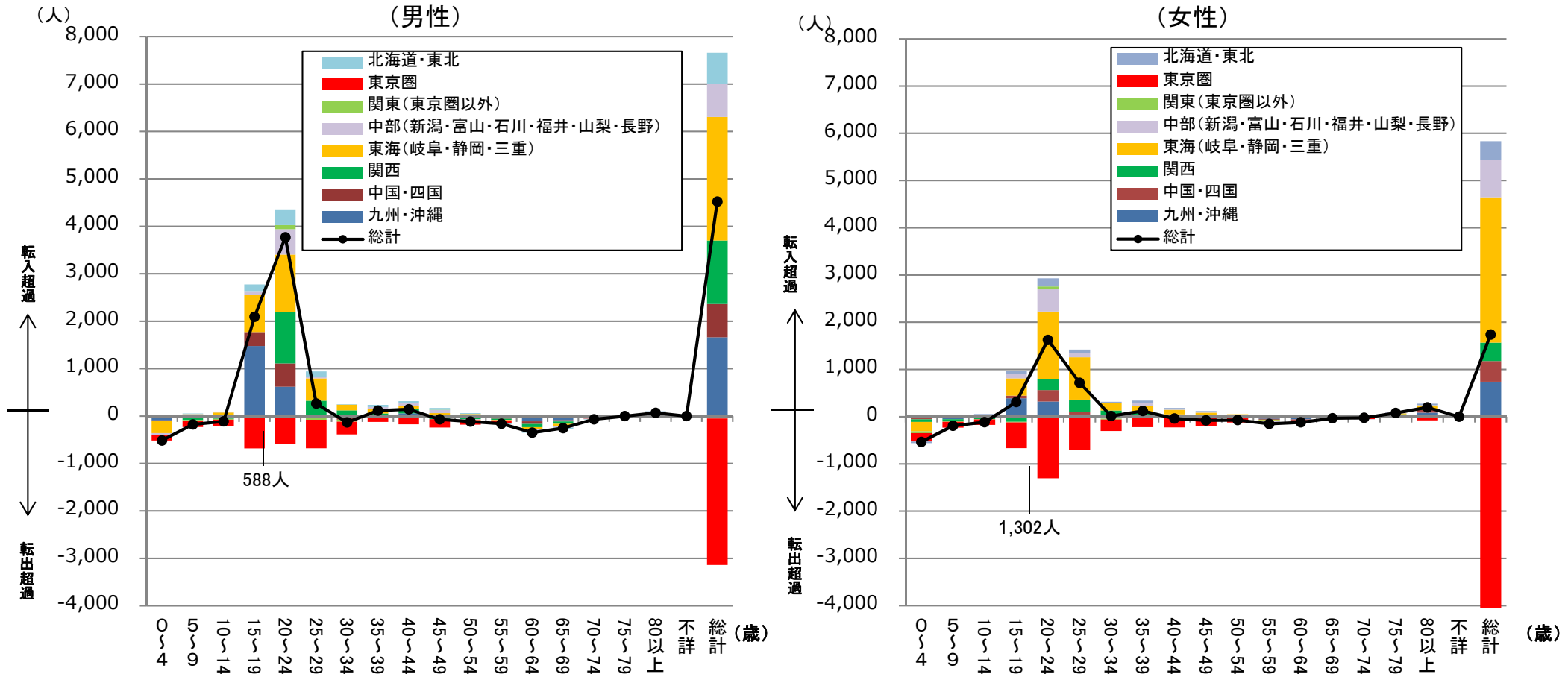
出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※数値は日本人の国内移動に係る集計、各年1月～12月

男女別・年齢階級別の人口移動の状況

- 男性は、15～29歳で東海、関西、九州・沖縄などを中心に大幅な転入超過となっているが、東京圏(東京・埼玉・千葉・神奈川)に対しては、15～19歳、25～29歳などで転出超過数が大きくなっている。
- 女性も15～29歳で転入超過となっているが、超過数は男性ほど大きくはない。東京圏への転出超過数は男性よりも大きく、特に大学卒業後の就職時に当たる20歳代前半が顕著。

愛知県の人口移動の状況(2016年1月～12月)(男女・年齢階級・全国地域ブロック別)

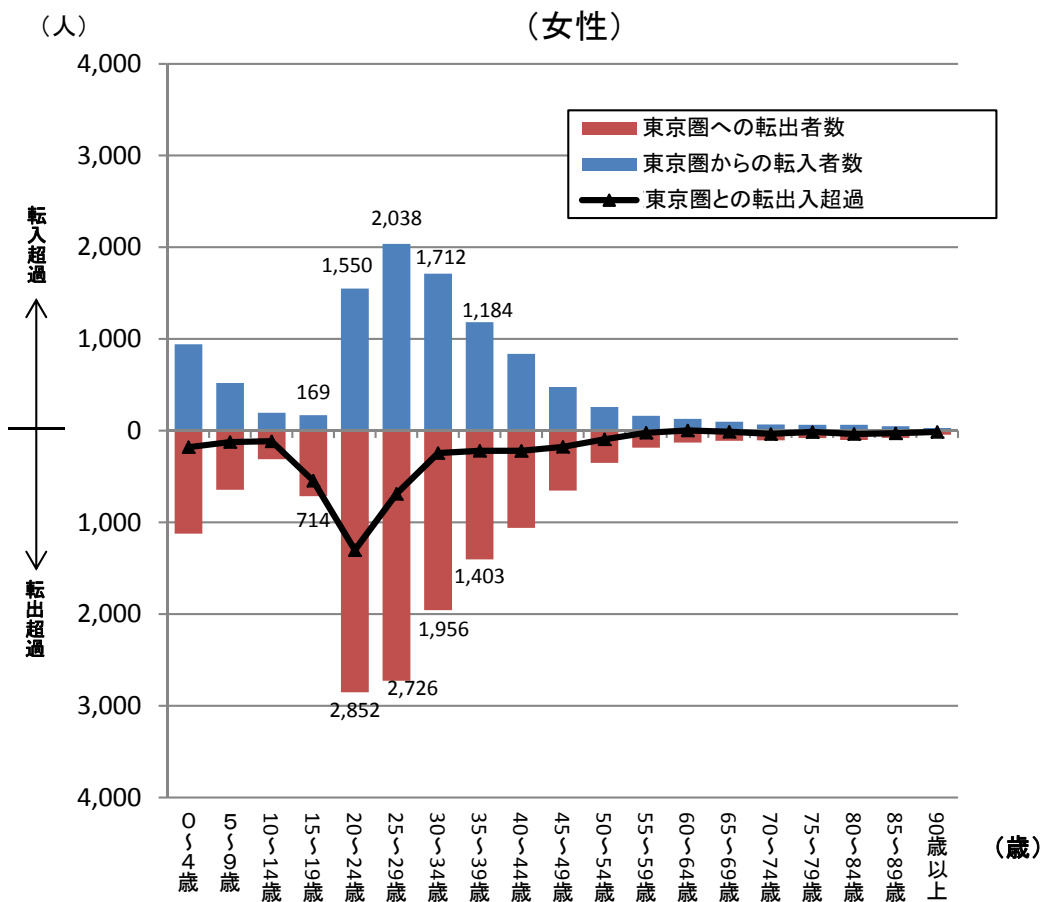
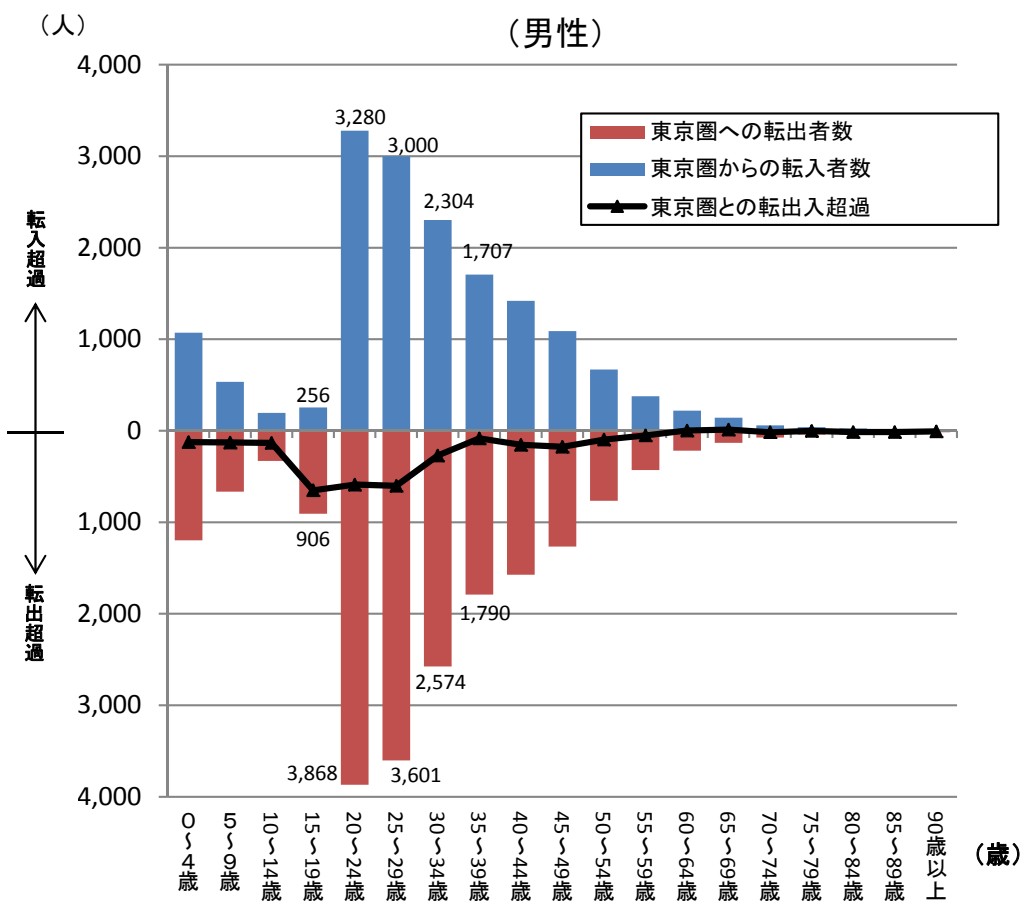


出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」
※数値は日本人の国内移動を集計したもの。

東京圏に対する男女別・年齢階級別の人口移動の状況

- 東京圏(東京・埼玉・千葉・神奈川)に対する人口移動の状況について、男女ともに、20歳代の転出入が多く年齢とともに減少していく。
- 男女を比較すると、男性の方が転出入者数は多く、大学卒業後の就職時に当たる20歳代前半が最も多くなっている。女性の場合、20歳代前半の転入者数が男性の半分以下にとどまっている。

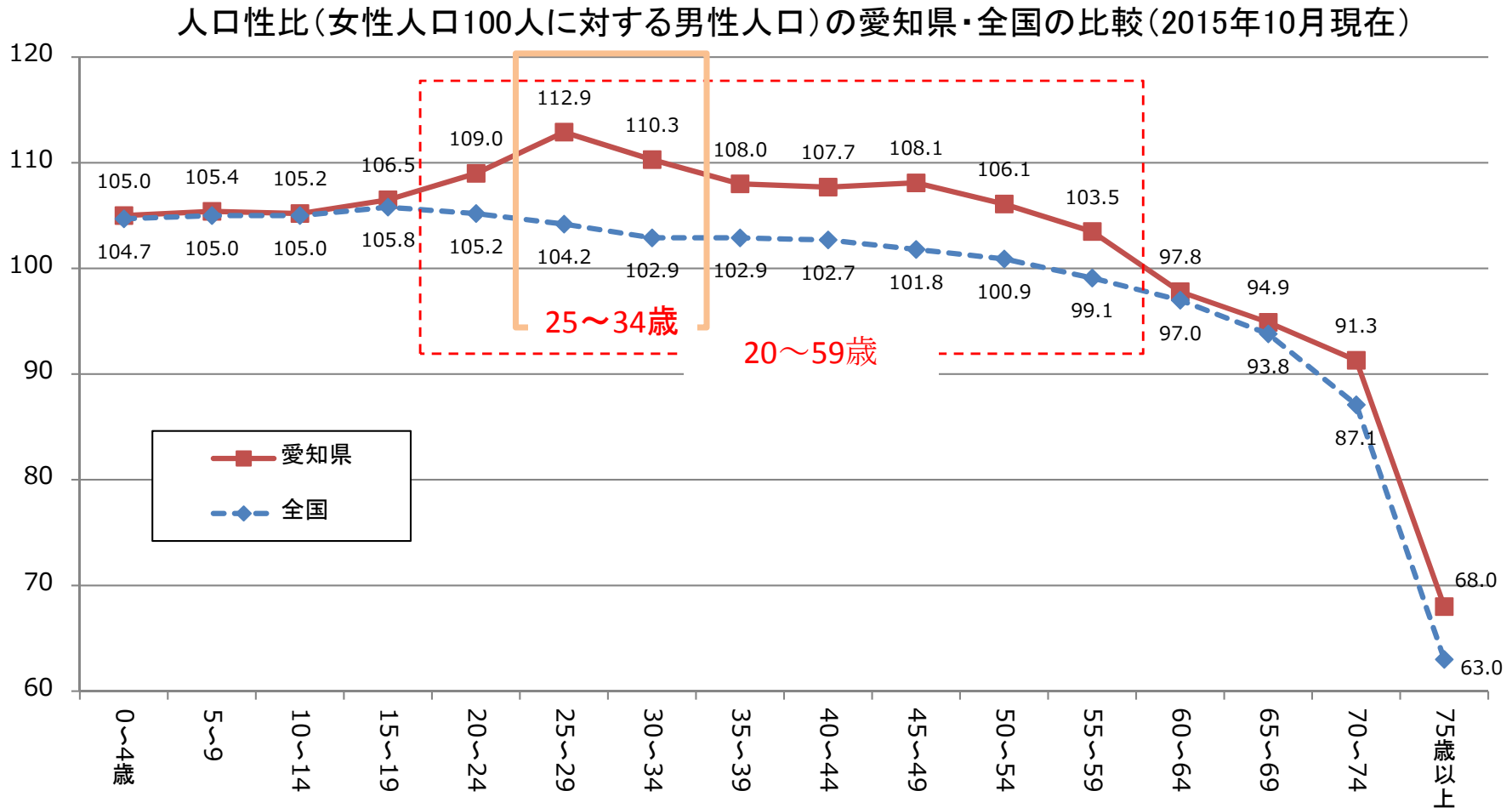
愛知県の東京圏に対する男女別・年齢階級別の人口移動の状況(2016年1月～12月)



出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」※外国人を含まない。

人口性比

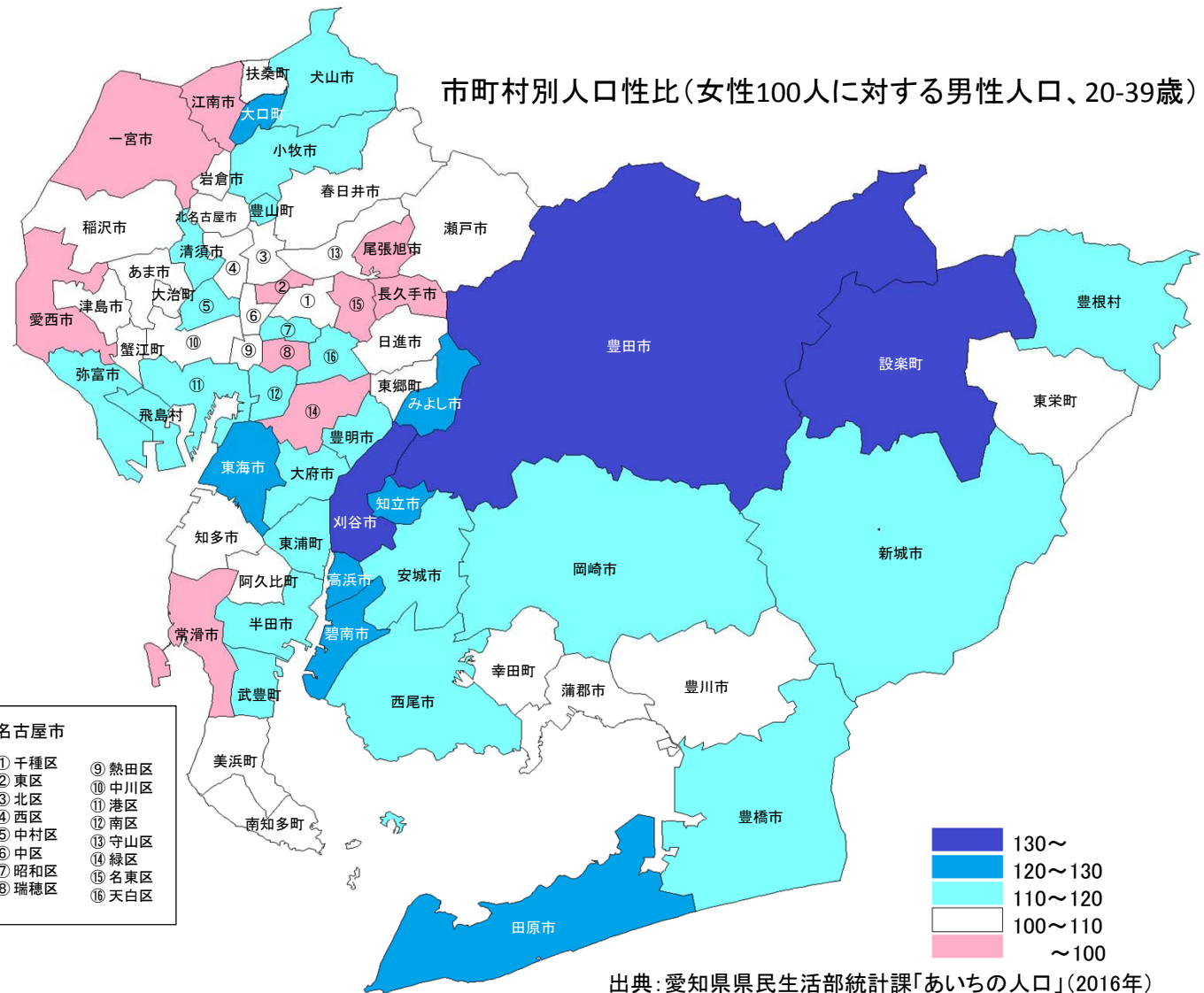
- 女性人口100人に対する男性人口については、本県は、全国と比較して男性の比率が高い。
- 年齢階級別に見ると、特に20歳から59歳までの区分で全国に比べ男性の比率が高くなっており、特に20歳代から30歳代前半において差が大きくなっている。



市町村別人口性比

○ 2016年の20-39歳の人口性比(女性人口100人に対する男性人口)を市町村別に見ると、設楽町(136.9)、豊田市(135.8)、刈谷市(131.5)などで男性の比率が高くなっている。

市町村	人口性比	市町村	人口性比
名古屋市	105.0	稲沢市	105.5
千種区	103.4	新城市	111.3
東区	89.6	東海市	128.2
北区	103.4	大府市	117.7
西区	105.7	知多市	109.3
中村区	113.7	知立市	123.3
中区	101.4	尾張旭市	97.6
昭和区	114.1	高浜市	121.9
瑞穂区	95.1	岩倉市	103.3
熱田区	103.6	豊明市	111.1
中川区	104.1	日進市	103.6
港区	113.0	田原市	125.7
南区	116.1	愛西市	96.7
守山区	106.0	弥富市	110.8
緑区	99.5	みよし市	122.2
名東区	96.3	あま市	103.3
天白区	113.4	長久手市	98.0
豊橋市	112.3	愛知郡 東郷町	105.0
岡崎市	113.1	西春日井郡 豊山町	111.7
一宮市	98.5	丹羽郡 大口町	121.6
瀬戸市	105.0	丹羽郡 扶桑町	107.9
半田市	110.0	海部郡 大治町	100.6
春日井市	105.4	海部郡 蟹江町	100.4
豊川市	109.3	海部郡 飛島村	110.3
津島市	102.2	知多郡 阿久比町	103.6
碧南市	124.8	知多郡 東浦町	110.7
刈谷市	131.5	知多郡 南知多町	108.1
豊田市	135.8	知多郡 美浜町	100.8
安城市	116.8	知多郡 武豊町	116.6
西尾市	116.2	額田郡 幸田町	108.2
蒲郡市	105.5	北設楽郡 設楽町	136.9
犬山市	112.6	北設楽郡 東栄町	108.0
常滑市	98.9	北設楽郡 豊根村	112.8
江南市	100.0		
小牧市	112.9		



市町村別人口増減の動向(2010年⇒2015年)

○ 2010年と2015年の国勢調査による市町村別の人口増減率をみると、名古屋市近郊、西三河地域で人口が増加している市町が多く、三河山間地域や知多半島先端の町村で人口減少が大きい(人口増:32市町、人口減:22市町村)。

市町村別人口増減率順位
(2010年⇒2015年)

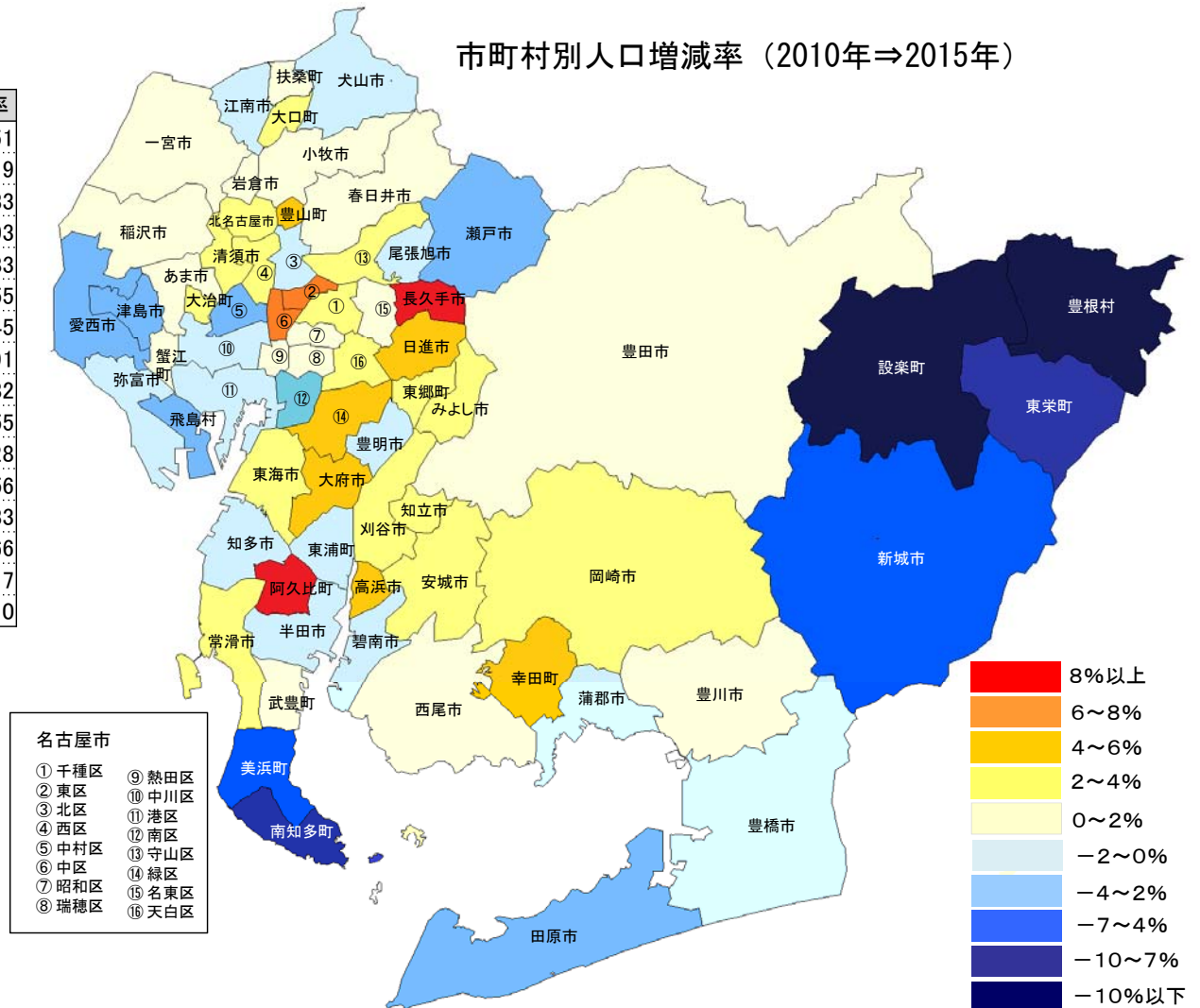
単位: %

順位	市町村名	増減率	順位	市町村名	増減率
1	長久手市	10.72	28	春日井市	0.31
2	阿久比町	8.96	29	豊川市	0.28
3	豊山町	5.36	30	豊田市	0.25
4	高浜市	5.02	31	あま市	0.21
5	大府市	4.58	32	武豊町	0.15
6	日進市	4.44	33	弥富市	-0.01
7	幸田町	4.27	34	知多市	-0.18
8	東海市	3.95	35	尾張旭市	-0.44
9	大口町	3.69	36	豊橋市	-0.50
10	大治町	3.68	37	豊明市	-0.89
11	北名古屋市	3.14	38	碧南市	-0.93
12	常滑市	3.08	39	東浦町	-1.14
13	知立市	3.07	40	犬山市	-1.18
14	安城市	3.05	41	江南市	-1.37
15	みよし市	2.85	42	蒲都市	-1.40
16	刈谷市	2.73	43	半田市	-1.62
17	東郷町	2.41	44	瀬戸市	-2.40
18	岡崎市	2.33	45	田原市	-2.74
19	清須市	2.26	46	津島市	-2.80
20	西尾市	1.63	47	飛島村	-2.83
21	小牧市	1.58	48	愛西市	-2.91
22	名古屋市	1.40	49	新城市	-5.48
23	蟹江町	1.08	50	美浜町	-6.37
24	扶桑町	0.74	51	東栄町	-8.28
25	一宮市	0.61	52	南知多町	-8.96
26	岩倉市	0.47	53	設楽町	-12.05
27	稲沢市	0.37	54	豊根村	-15.04
				愛知県	0.98

(名古屋市内)

順位	区名	増減率
1	東区	6.51
2	中区	6.19
3	緑区	5.33
4	千種区	2.93
5	西区	2.83
6	守山区	2.55
7	天白区	2.45
8	名東区	1.91
9	熱田区	1.82
10	昭和区	1.55
11	瑞穂区	0.28
12	中川区	-0.56
13	北区	-1.33
14	港区	-1.66
15	中村区	-2.17
16	南区	-3.10

市町村別人口増減率(2010年⇒2015年)



出典:総務省「国勢調査」(2010年・2015年)

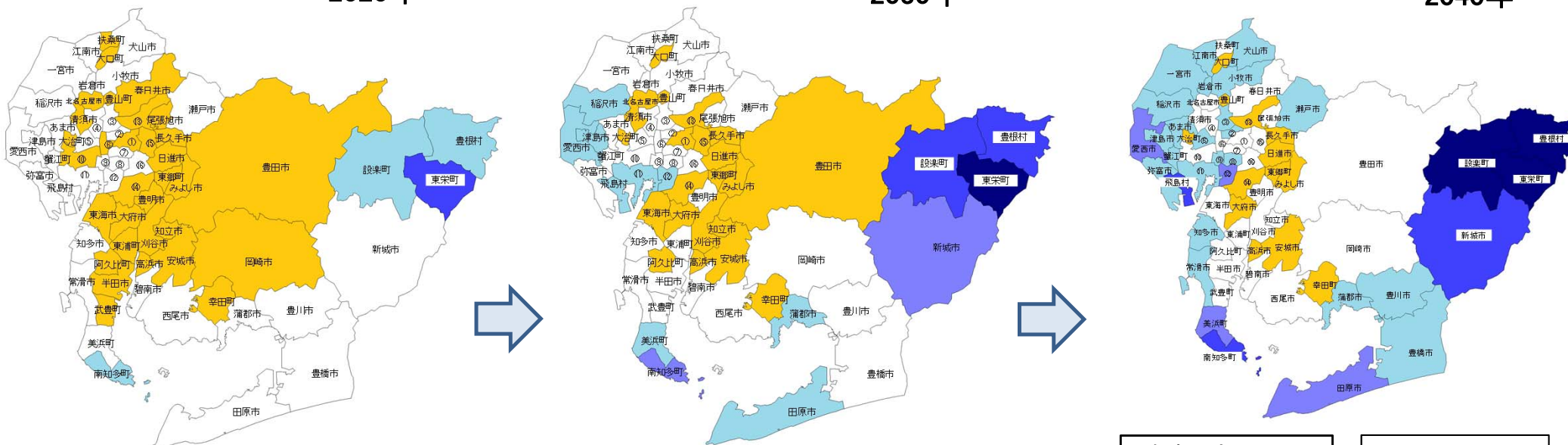
市町村別推計人口(社人研推計)

- 国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、名古屋市近郊の尾張東部地域や、我が国屈指の産業集積地である西三河地域では、当面、人口増加が続くことが見込まれている。
- 一方で、三河山間部や知多半島南部などの沿岸部においては、人口減少が急速に進んでいくことが見込まれている。

2020年

2030年

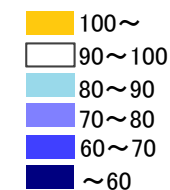
2040年



名古屋市

- ① 千種区 ⑨ 熱田区
- ② 東区 ⑩ 中川区
- ③ 北区 ⑪ 港区
- ④ 西区 ⑫ 南区
- ⑤ 中村区 ⑬ 守山区
- ⑥ 中区 ⑭ 緑区
- ⑦ 昭和区 ⑮ 名東区
- ⑧ 瑞穂区 ⑯ 天白区

市町村別推計人口 (対2010年比)

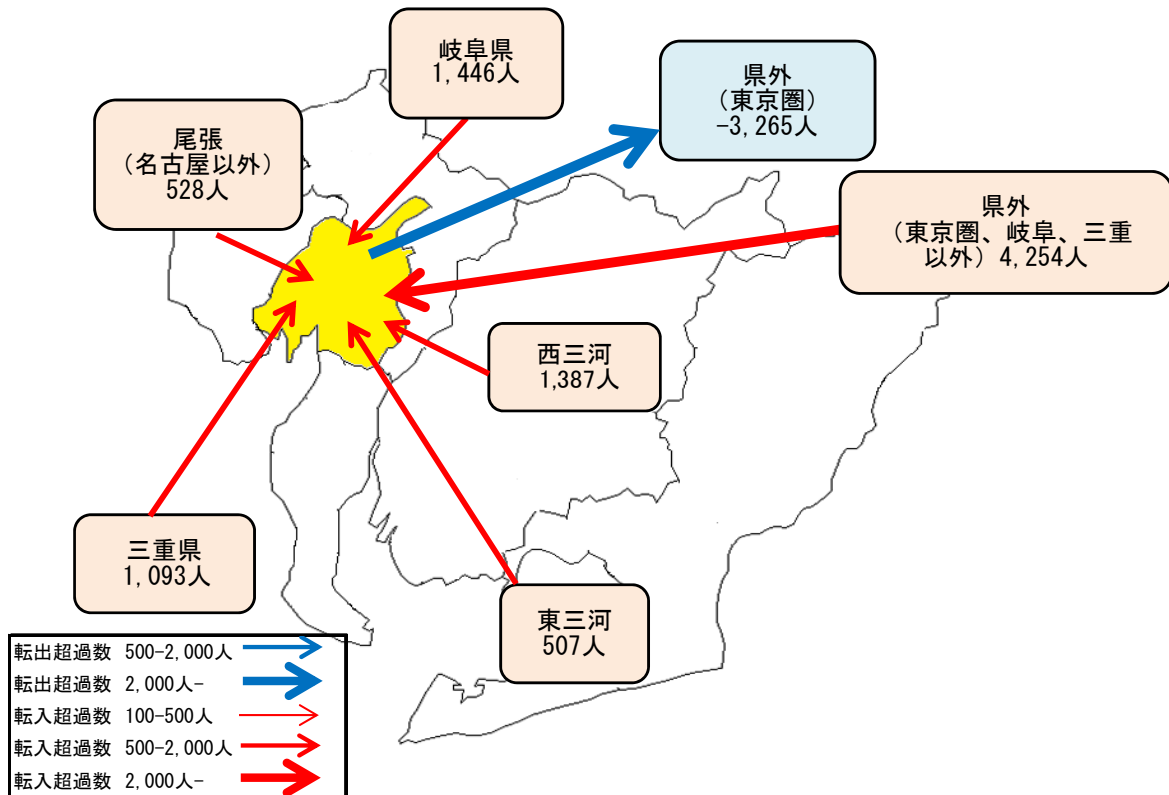


出典:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H25.3推計)

地域別の転出入の状況①(名古屋)

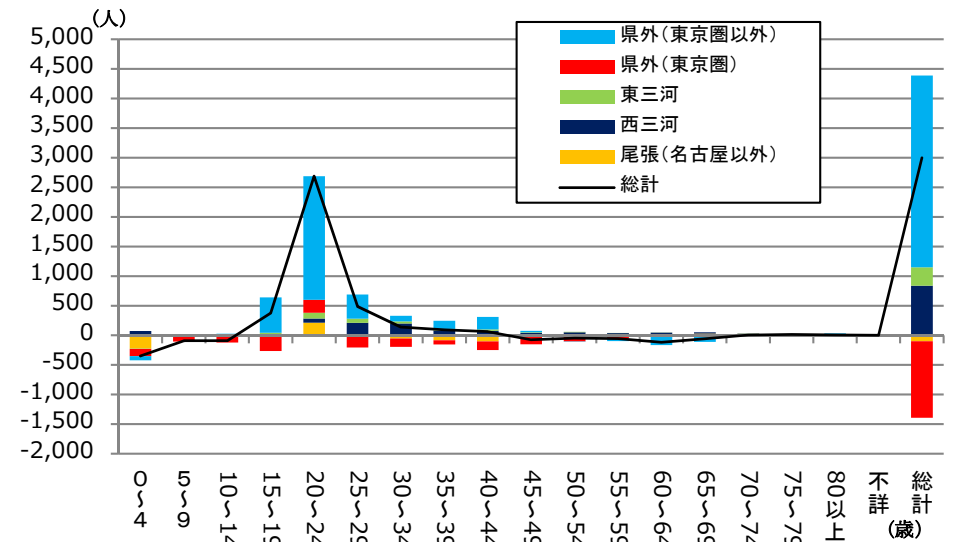
- 名古屋地域の転出入は、5,950人の転入超過となっている。東京圏以外は県内外全ての地域に対して転入超過となっている。
- 男女ともに、20歳代前半の若者層を中心に転入超過となっている。

名古屋地域における転出入の状況 (2016年)

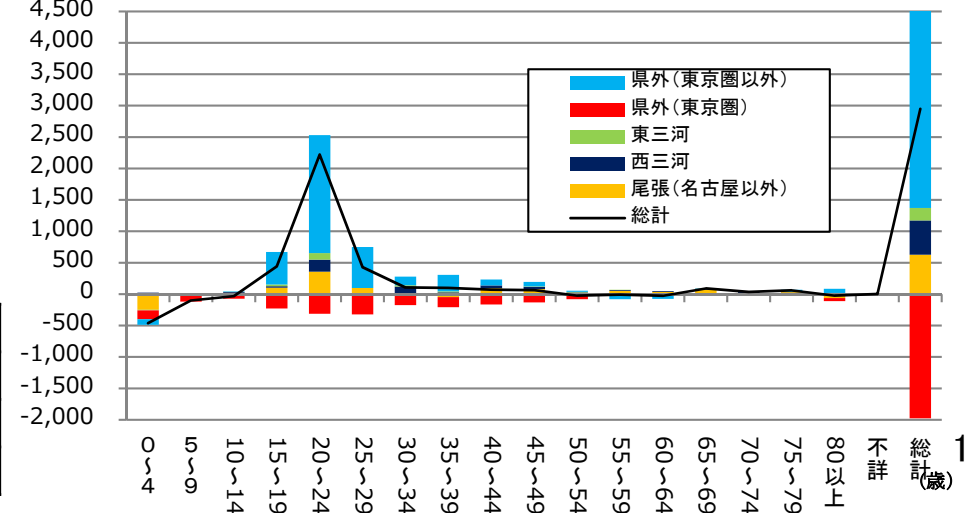


	2013年	2014年	2015年	2016年
転入超過数(県内)	1,451人	1,673人	2,490人	2,422人
転入超過数(県外)	3,778人	3,607人	4,786人	3,528人
転入超過数(総計)	5,229人	5,280人	7,276人	5,950人

5歳階級別純移動数 名古屋 (男性)



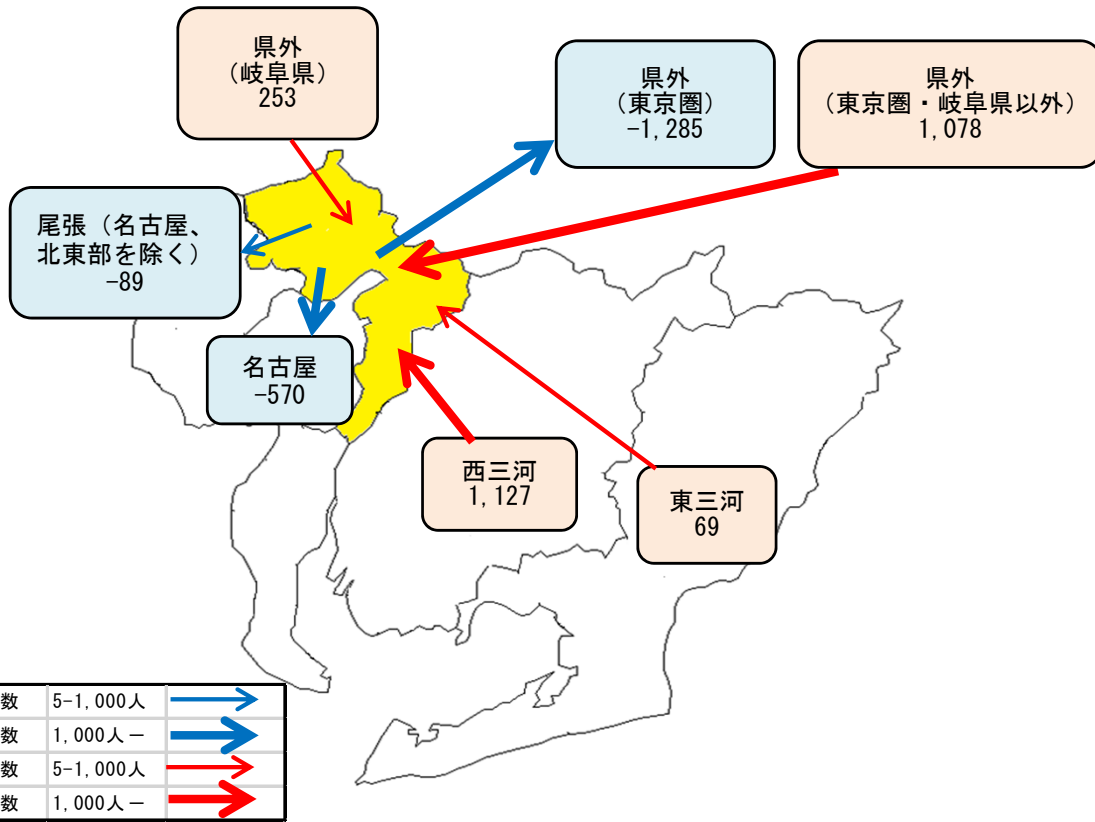
5歳階級別純移動数 名古屋 (女性)



地域別の転出入の状況②(尾張北東部)

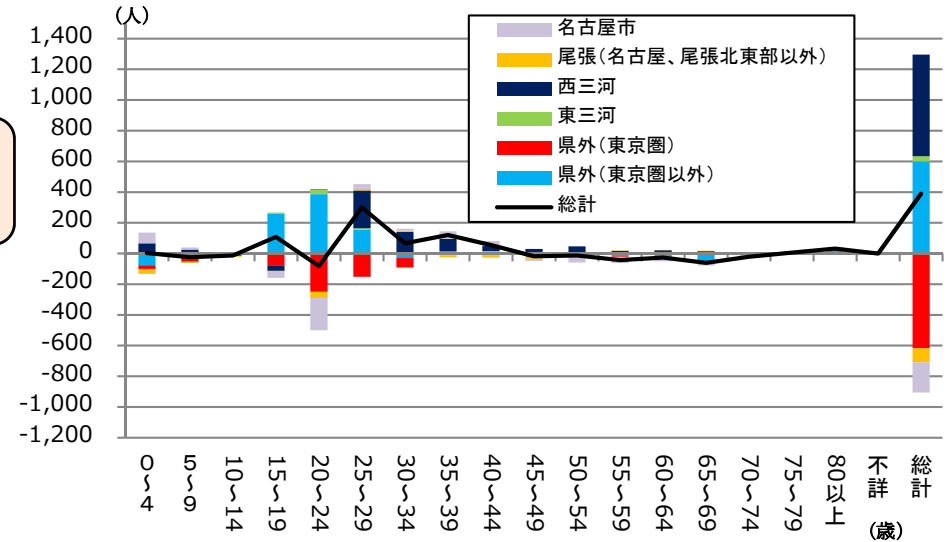
- 尾張北東部地域の転出入は、583人の転入超過となっている。東京圏以外の県外、西三河、東三河に対して転入超過、東京圏、名古屋、尾張に対して転出超過となっている。
- 男女ともに、20歳代前半で転出超過、20歳代後半から30歳代にかけて転入超過となっている。

尾張北東部地域における転出入の状況 (2016年)

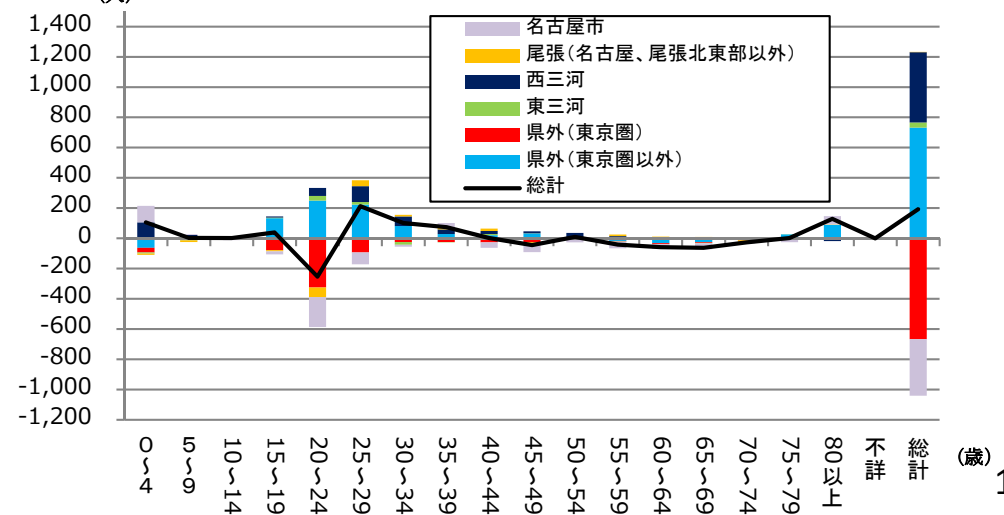


	2013年	2014年	2015年	2016年
転入超過数(県内)	1,390人	1,788人	1,573人	537人
転入超過数(県外)	60人	54人	110人	46人
転入超過数(総計)	1,450人	1,842人	1,683人	583人

5歳階級別純移動数 尾張北東部 (男性)



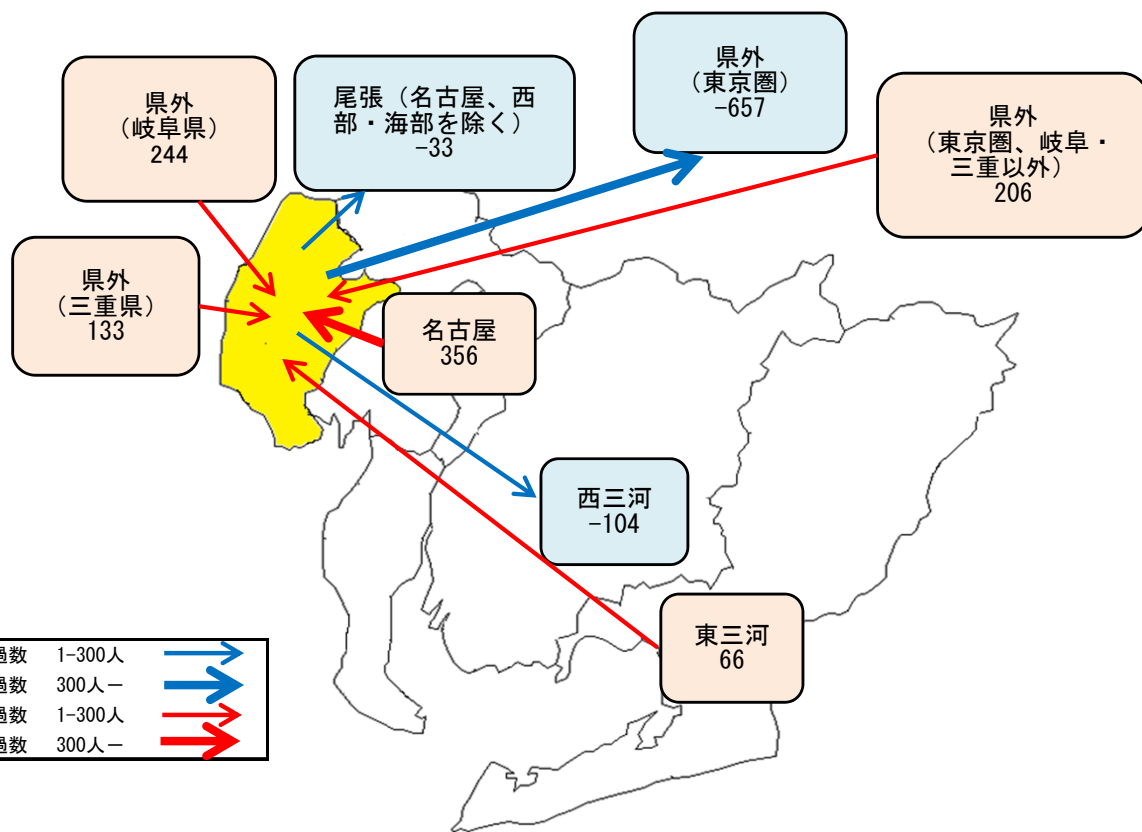
5歳階級別純移動数 尾張北東部地域 (女性)



地域別の転出入の状況③(尾張西部・海部)

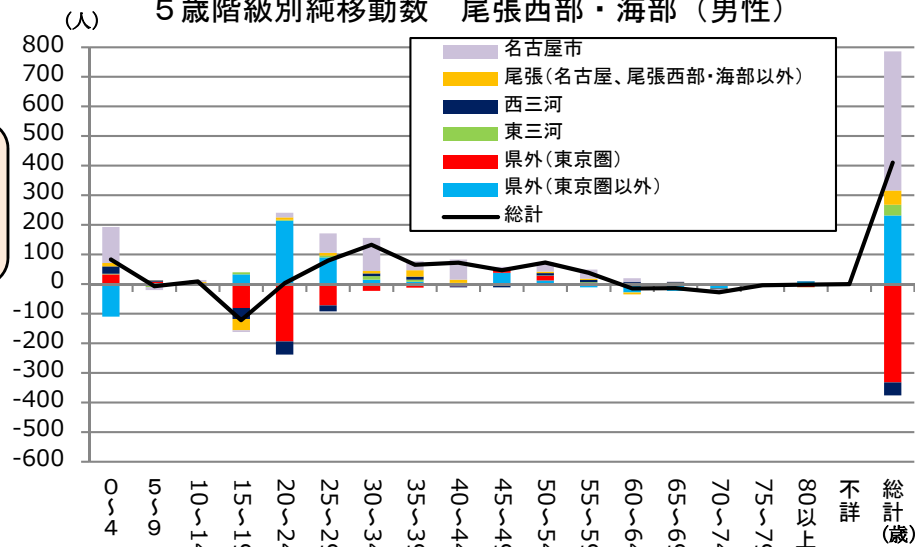
- 尾張西部・海部地域の転出入は、211人の転入超過となっている。東京圏以外の県外、名古屋、東三河に対して転入超過、東京圏、尾張、西三河に対しては転出超過となっている。
- 男性は10歳代後半で転出超過、20歳代後半以降は転入超過。女性は、10歳代後半から20歳代前半を中心に転出超過傾向。

尾張西部・海部地域における転出入の状況 (2016年)

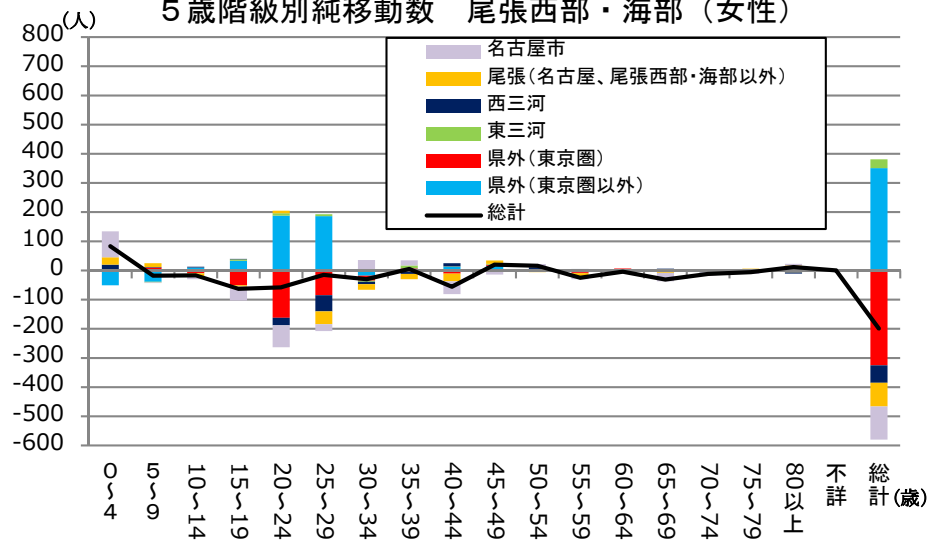


	2013年	2014年	2015年	2016年
転入超過数(県内)	394人	410人	▲146人	285人
転入超過数(県外)	410人	101人	▲284人	▲74人
転入超過数(総計)	804人	511人	▲430人	211人

5歳階級別純移動数 尾張西部・海部 (男性)



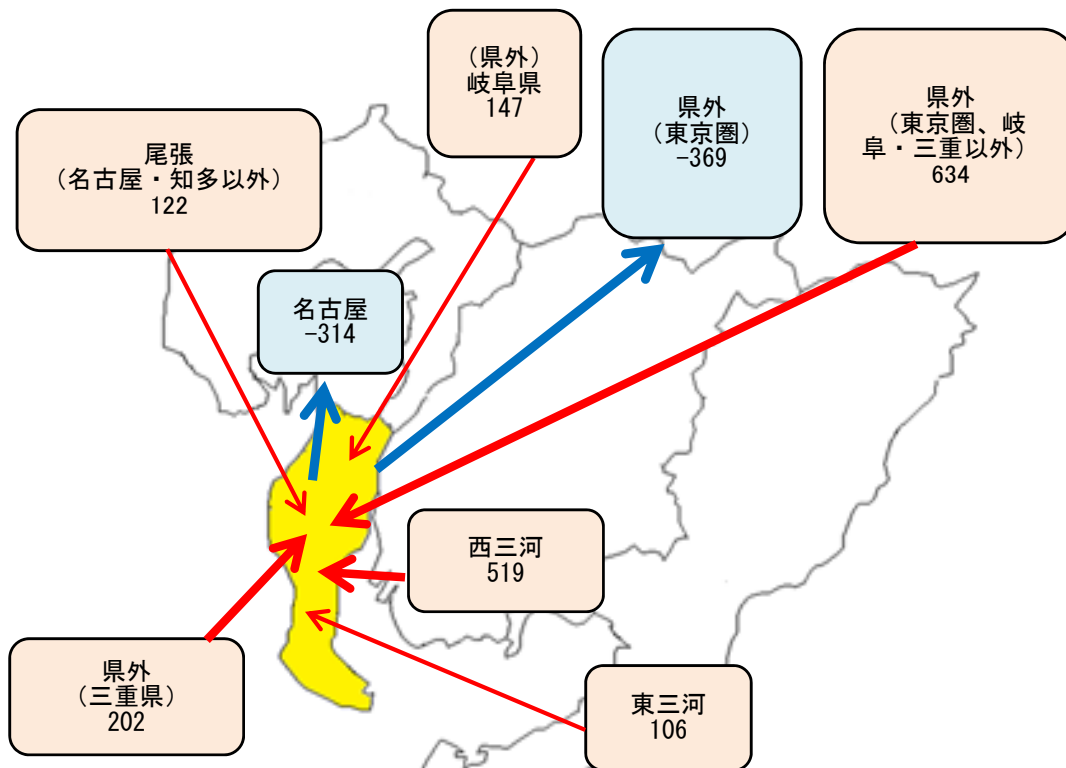
5歳階級別純移動数 尾張西部・海部 (女性)



地域別の転出入の状況④(知多)

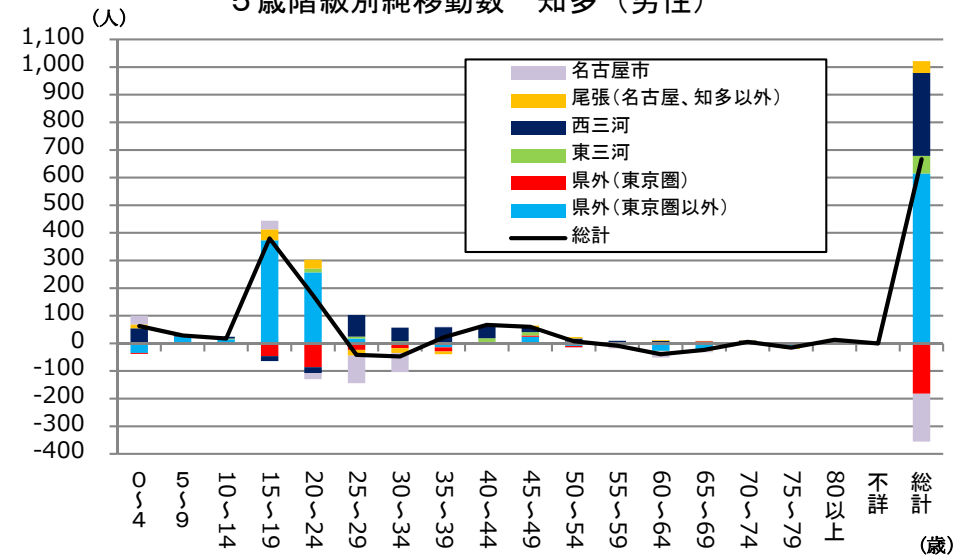
- 知多地域の転出入は、1,047人の転入超過となっている。西三河、尾張、県外（東京圏以外）に対して転入超過、名古屋、東京圏に対しては転出超過となっている。
- 男性は10歳代後半から20歳代前半を中心に転入超過。女性は、10歳代後半から20歳代にかけて転入超過。

知多地域における転出入の状況（2016年）

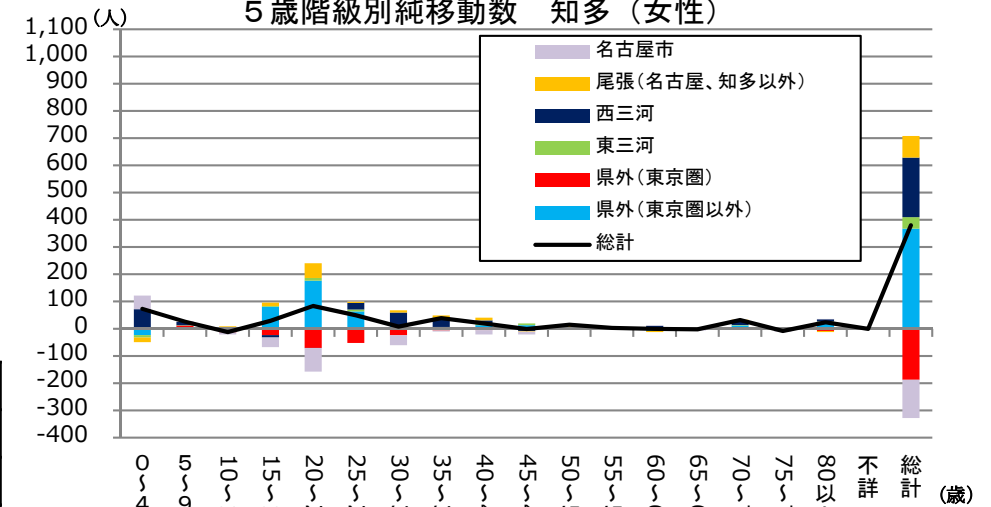


	2013年	2014年	2015年	2016年
転入超過数(県内)	695人	234人	282人	433人
転入超過数(県外)	628人	115人	725人	614人
転入超過数(総計)	1,323人	349人	1,007人	1,047人

5歳階級別純移動数 知多(男性)



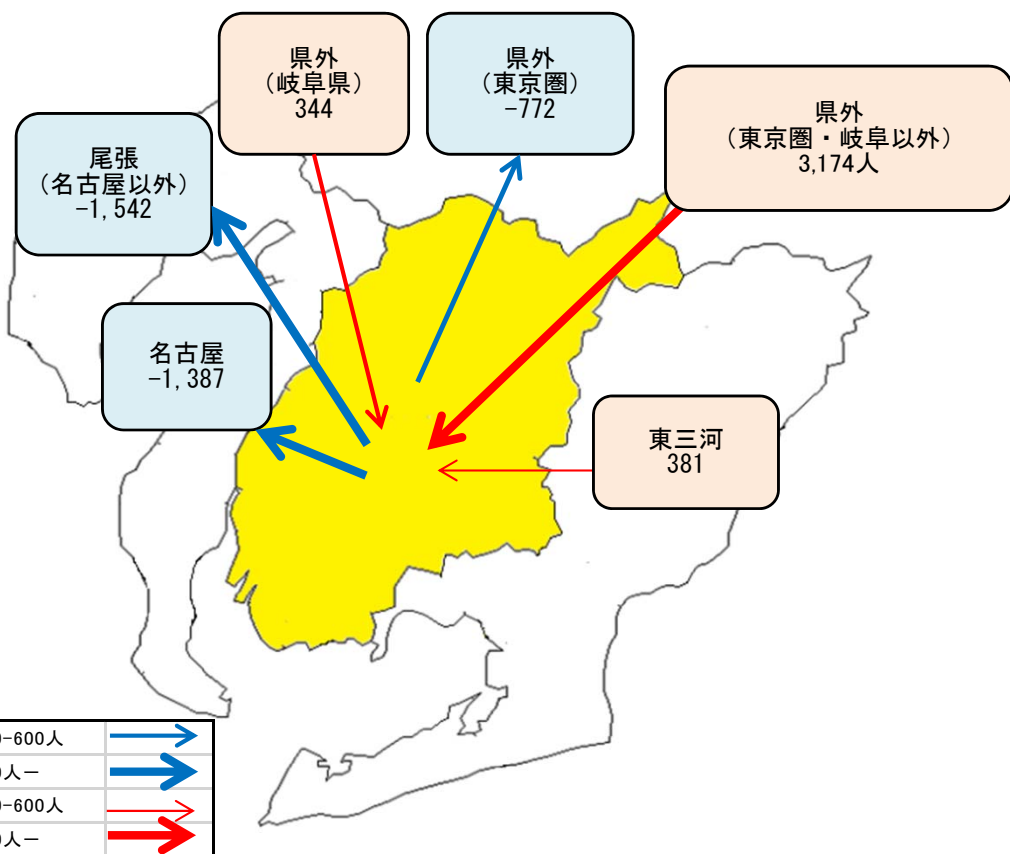
5歳階級別純移動数 知多(女性)



地域別の転出入の状況⑤(西三河)

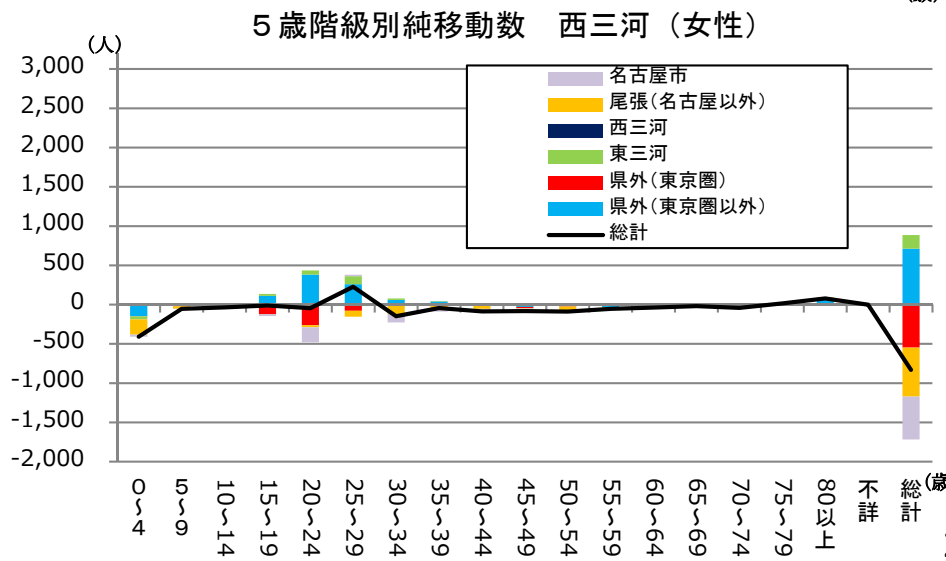
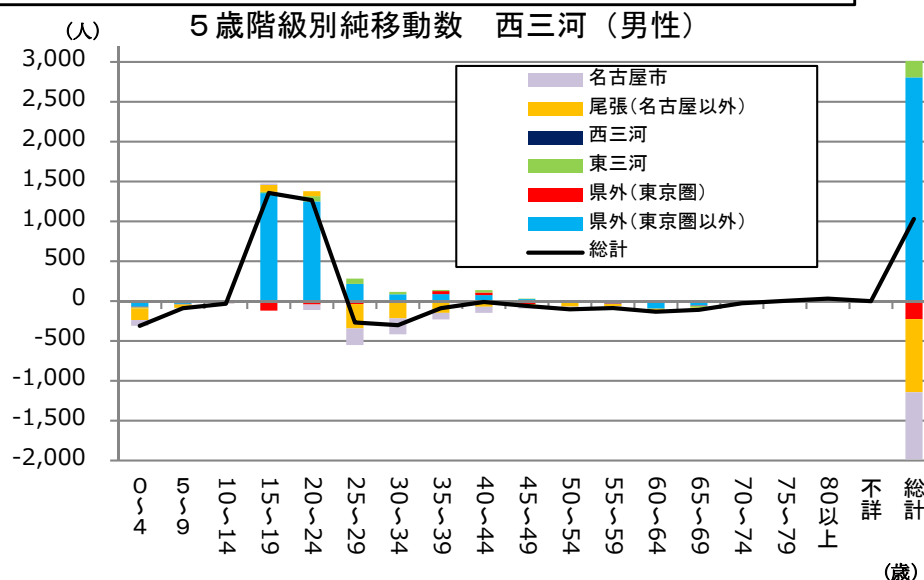
- 西三河地域の転出入は、198人の転入超過となっている。東三河、県外（東京圏以外）に対しては転入超過、尾張・名古屋、東京圏に対して転出超過となっている。
- 男性は10歳代後半と20歳代前半を中心に大幅な転入超過、20歳代後半から30歳代以降は転出超過傾向。女性は、20歳代後半が転入超過、30歳代以降は転出超過傾向。

西三河地域における転出入の状況（2016年）



転出超過数	400-600人	→
転出超過数	600人-	→
転入超過数	100-600人	←
転入超過数	600人-	←

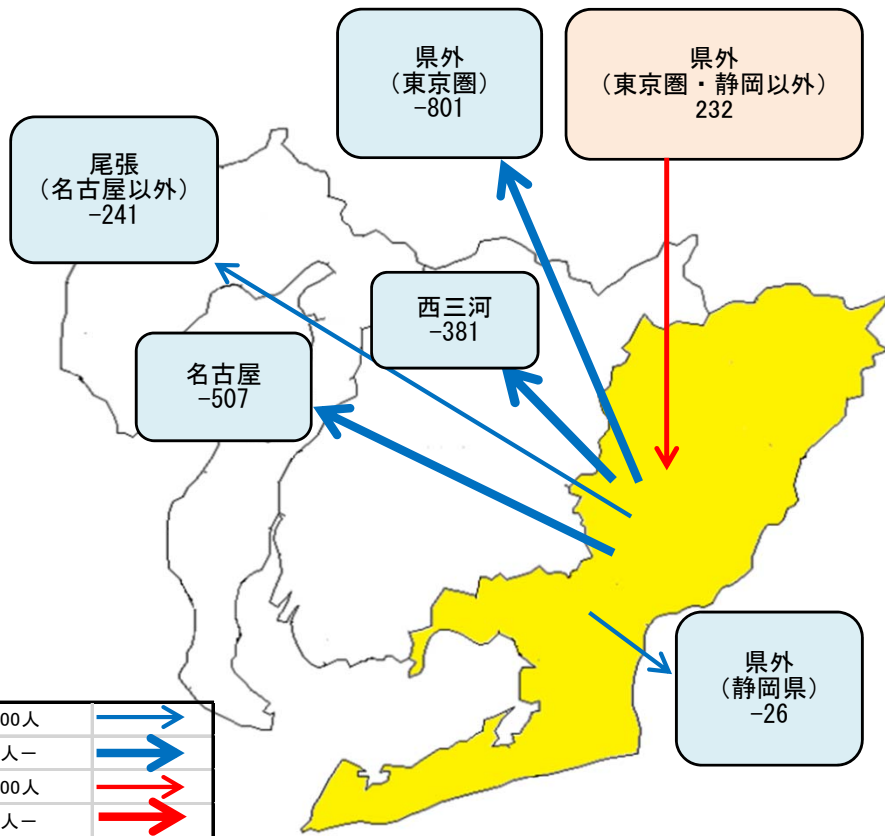
	2013年	2014年	2015年	2016年
転入超過数(県内)	▲3,121人	▲3,265人	▲2,901人	▲2,548人
転入超過数(県外)	3,020人	2,677人	3,249人	2,746人
転入超過数(総計)	▲101人	▲588人	348人	198人



地域別の転出入の状況⑥(東三河)

- 東三河地域の転出入は、1,724人の転出超過となっている。県外（東京圏・静岡以外）に対しては転入超過、東京圏、名古屋、尾張、西三河、静岡県に対しては転出超過となっている。
- 男女ともに20歳代を中心に転出超過となっている。

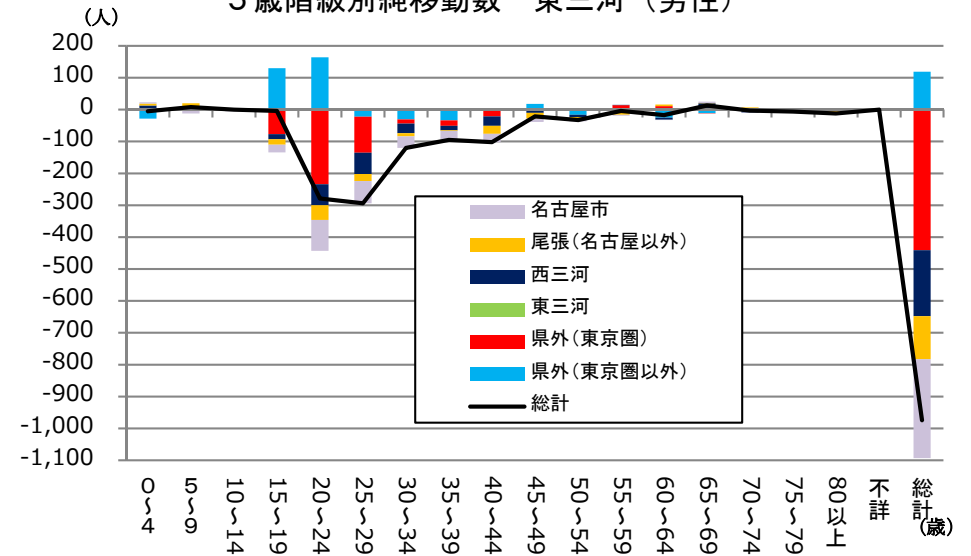
東三河地域における転出入の状況（2016年）



転出超過数	5-300人	
転出超過数	300人-	
転入超過数	5-300人	
転入超過数	300人-	

	2013年	2014年	2015年	2016年
転入超過数(県内)	▲809人	▲840人	▲1,298人	▲1,129人
転入超過数(県外)	▲5人	▲364人	▲264人	▲595人
転入超過数(総計)	▲814人	▲1,204人	▲1,562人	▲1,724人

5歳階級別純移動数 東三河（男性）



5歳階級別純移動数 東三河（女性）

